

Ⅲ 調査結果

① 第 1 回アンケート調査の結果

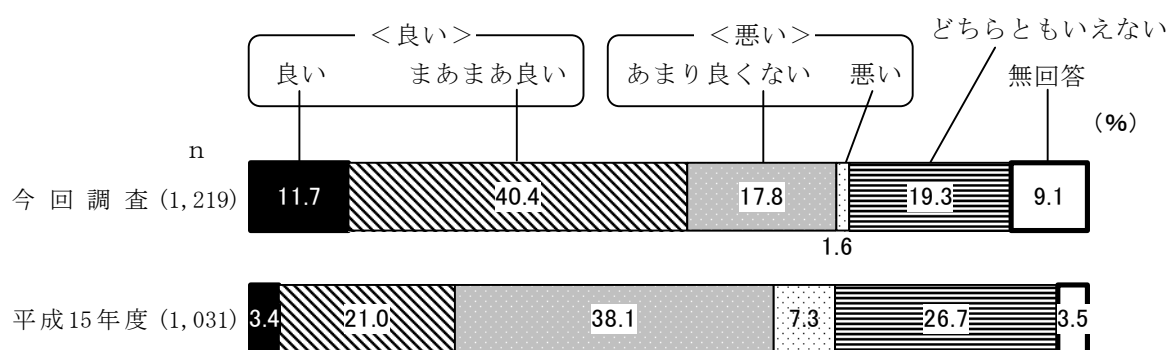
1 川崎市総合計画について

1-1 川崎市全体のイメージ

◎＜良い＞が52.1%

問1 あなたは、川崎市全体のイメージについてどう思いますか。(○は1つだけ)

図表1-1 川崎市全体のイメージ

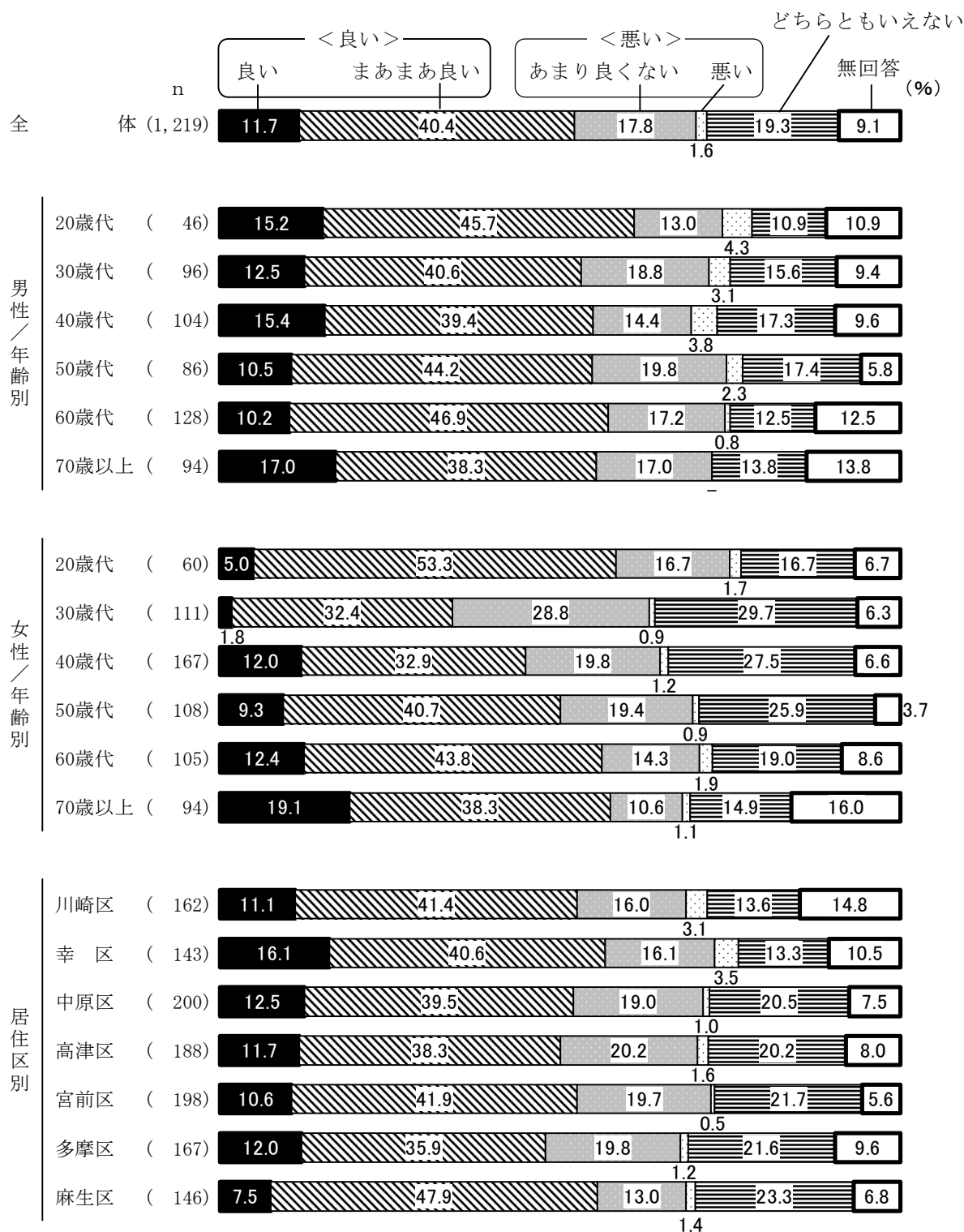


川崎市全体のイメージは、「良い」(11.7%)と「まあまあ良い」(40.4%)を合わせた＜良い＞が52.1%と多くなっています。一方「まあまあ悪い」(17.8%)と「悪い」(1.6%)を合わせた＜悪い＞は19.4%となっています。

平成15年度調査と比較すると、＜良い＞は27.7ポイント増加し、＜悪い＞は26.0ポイント減少しています。

(第1回アンケート)

図表1-2 川崎市全体のイメージ（性／年齢別・居住区別）



性／年齢別では、<良い>は、男性の20歳代（60.9%）、女性の20歳代（58.3%）の順で多くなっています。一方<悪い>は、女性の30歳代（29.7%）、男性の50歳代（22.1%）の順で多くなっています。

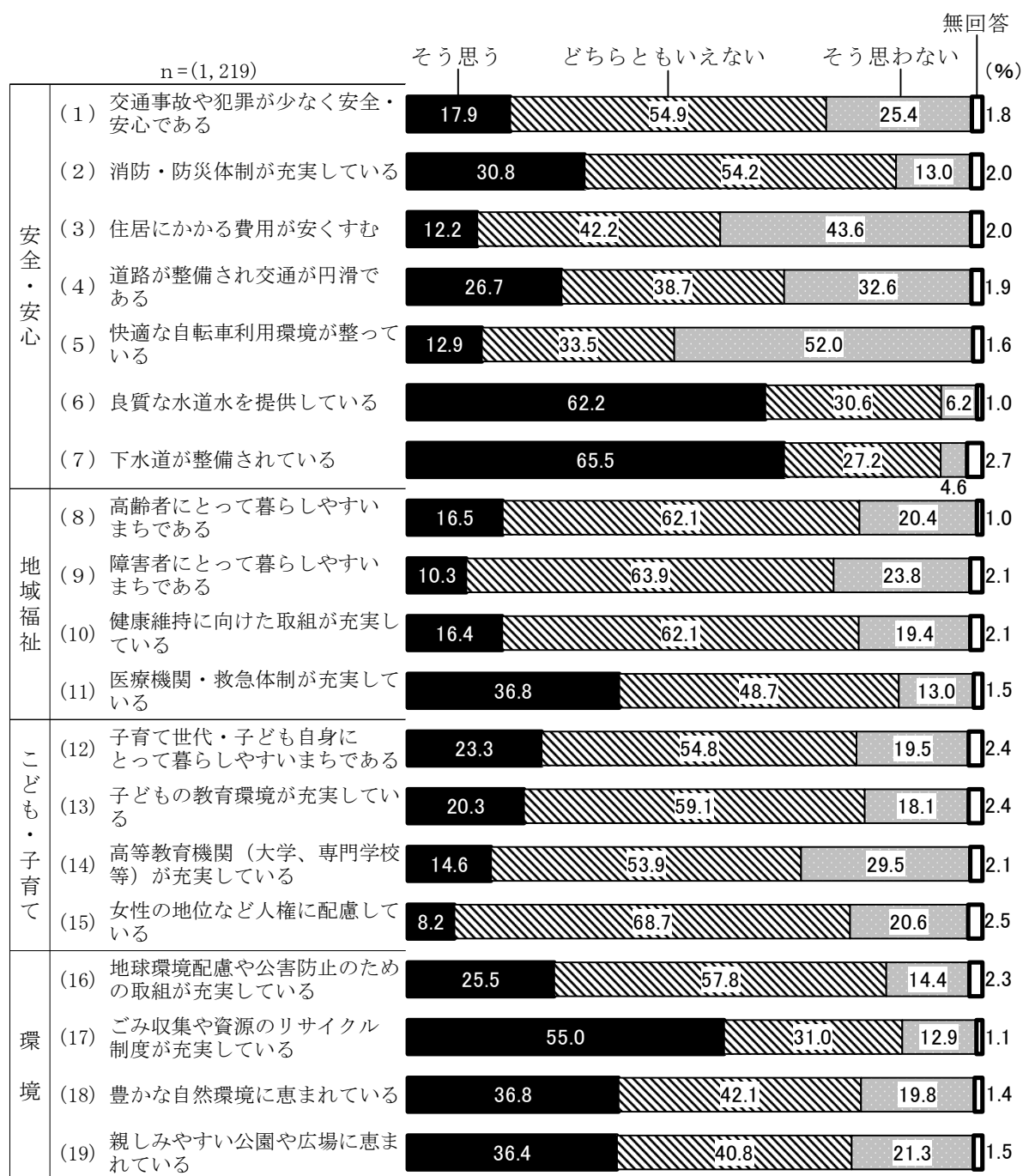
居住区別では、<良い>は、幸区（56.7%）、麻生区（55.4%）の順で多くなっています。

1-2 川崎市の魅力

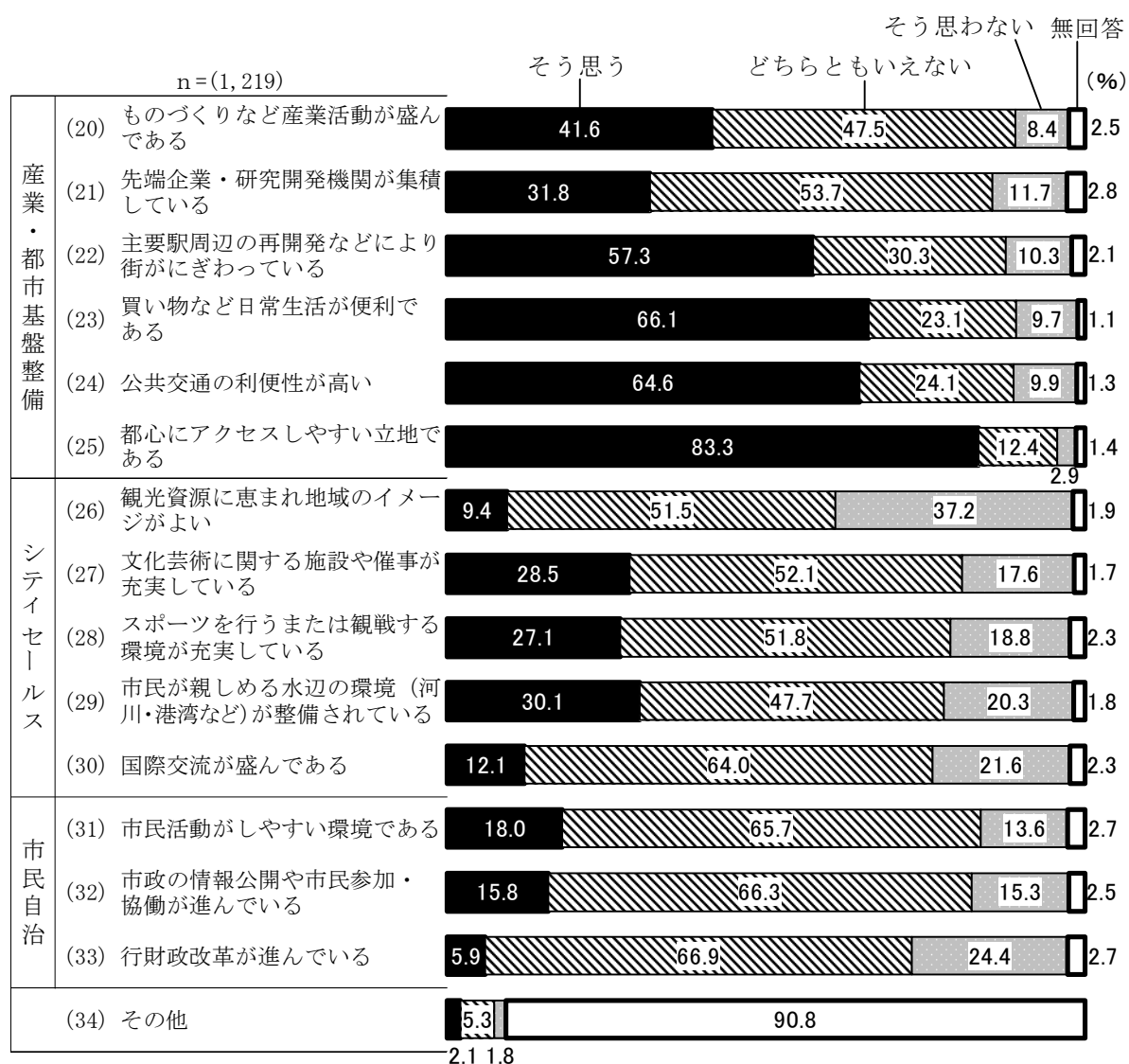
◎「そう思う」が最も多いのは「都心にアクセスしやすい立地である」で83.3%

問2 あなたは、川崎市の魅力がどのようなところであると思いますか。それぞれの項目ごとに教えてください。(〇はそれぞれ1ずつ)

図表1-3 川崎市の魅力



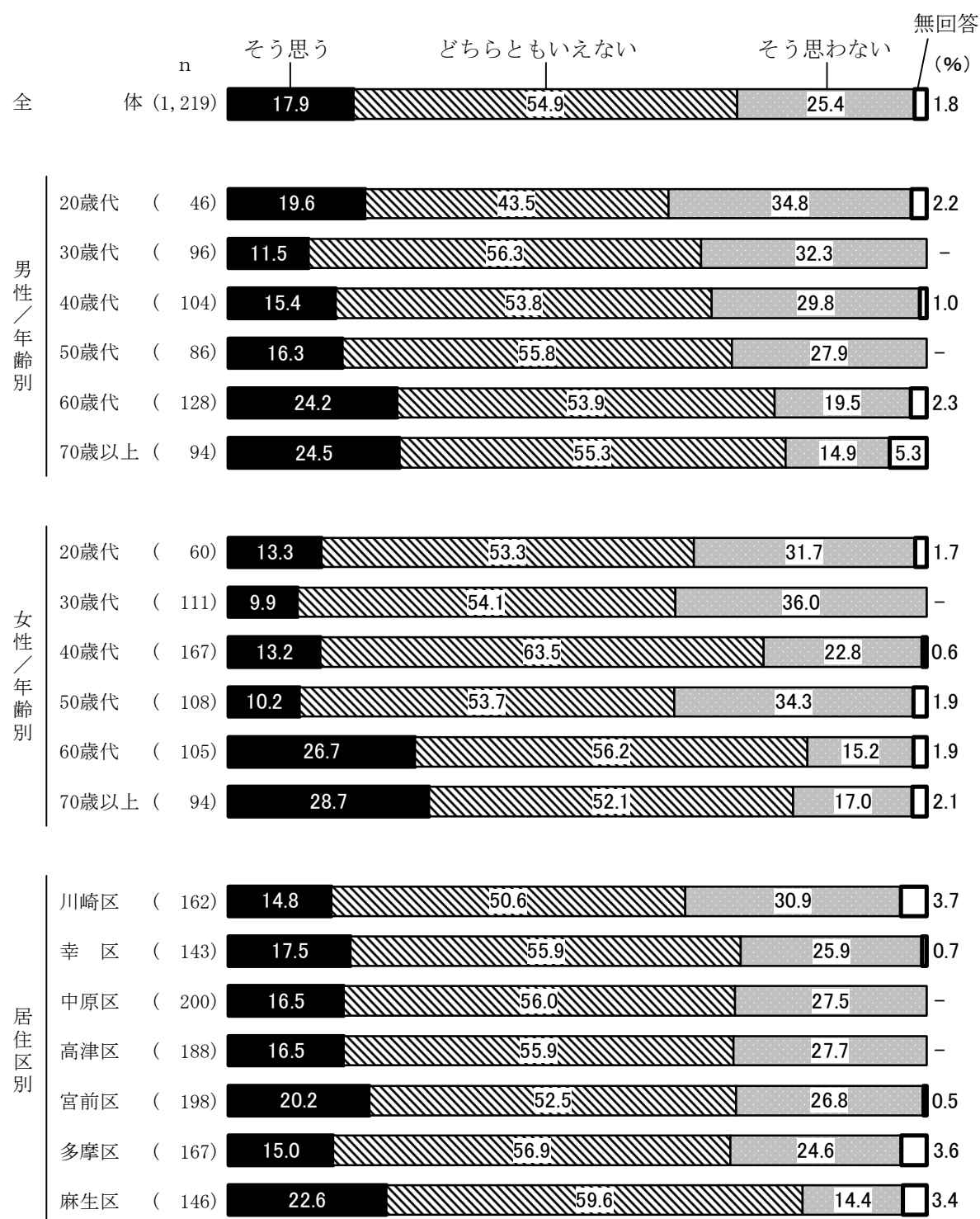
図表1-3 川崎市の魅力(つづき)



川崎市の魅力について、34項目に分けて聞きました。「そう思う」が最も多いのは、「(25) 都心にアクセスしやすい立地である」(83.3%)で、次いで「(23) 買い物など日常生活が便利である」(66.1%)、「(7) 下水道が整備されている」(65.5%)の順となっています。

一方「そう思わない」が最も多いのは、「(5) 快適な自転車利用環境が整っている」(52.0%)で、次いで「(3) 住居にかかる費用が安くすむ」(43.6%)、「(26) 観光資源に恵まれ地域のイメージがよい」(37.2%)の順となっています。

図表1-4 川崎市の魅力(1) 交通事故や犯罪が少なく安全・安心である(性/年齢別・居住区別)

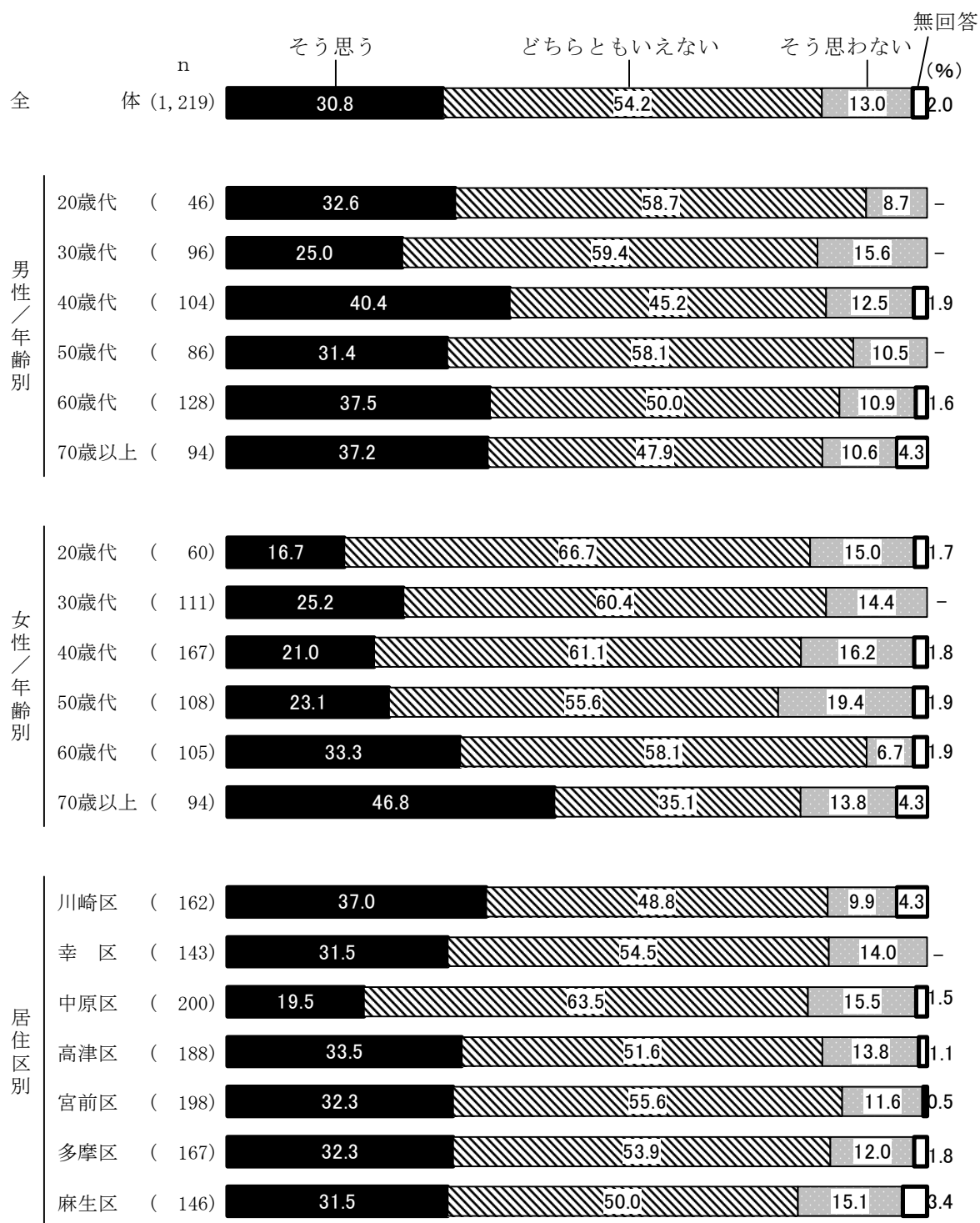


(1) 交通事故や犯罪が少なく安全・安心であるについて、性/年齢別では、「そう思う」は、女性の70歳以上(28.7%)、60歳代(26.7%)の順で多くなっています。一方「そう思わない」は、女性の30歳代(36.0%)、男性の20歳代(34.8%)の順で多くなっています。

居住区別では、「そう思う」は、麻生区(22.6%)で多くなっている一方、「そう思わない」は、川崎区(30.9%)で多くなっています。

(第1回アンケート)

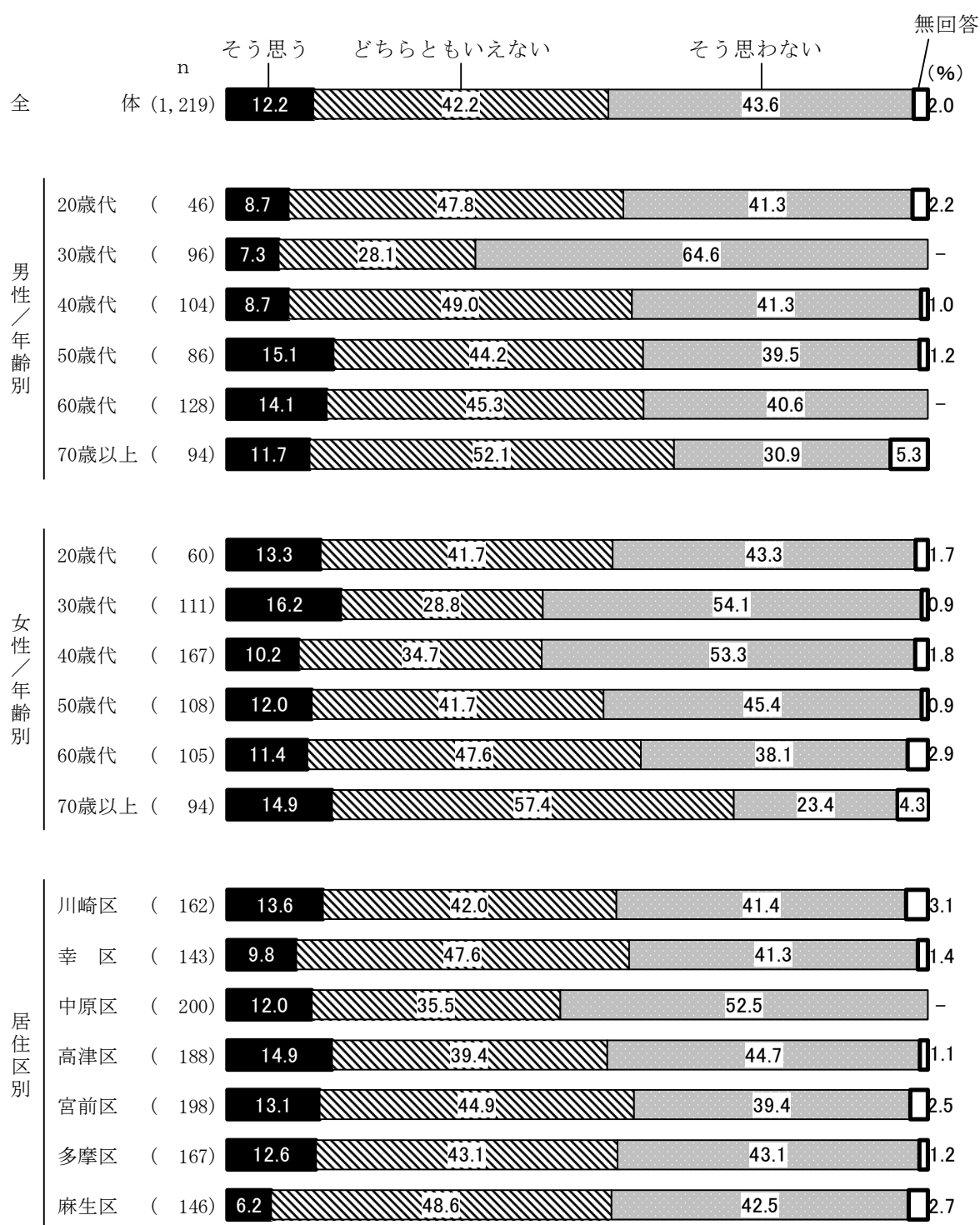
図表1-5 川崎市の魅力(2) 消防・防災体制が充実している(性/年齢別・居住区別)



(2) 消防・防災体制が充実しているについて、性/年齢別では、「そう思う」は、女性の70歳以上(46.8%)、男性の40歳代(40.4%)の順で多くなっています。一方「そう思わない」は、女性の50歳代(19.4%)、40歳代(16.2%)の順で多くなっています。

居住区別では、「そう思う」は、川崎区(37.0%)で多くなっている一方、中原区(19.5%)で少なくなっています。

図表1-6 川崎市の魅力(3) 住居にかかる費用が安くすむ(性/年齢別・居住区別)

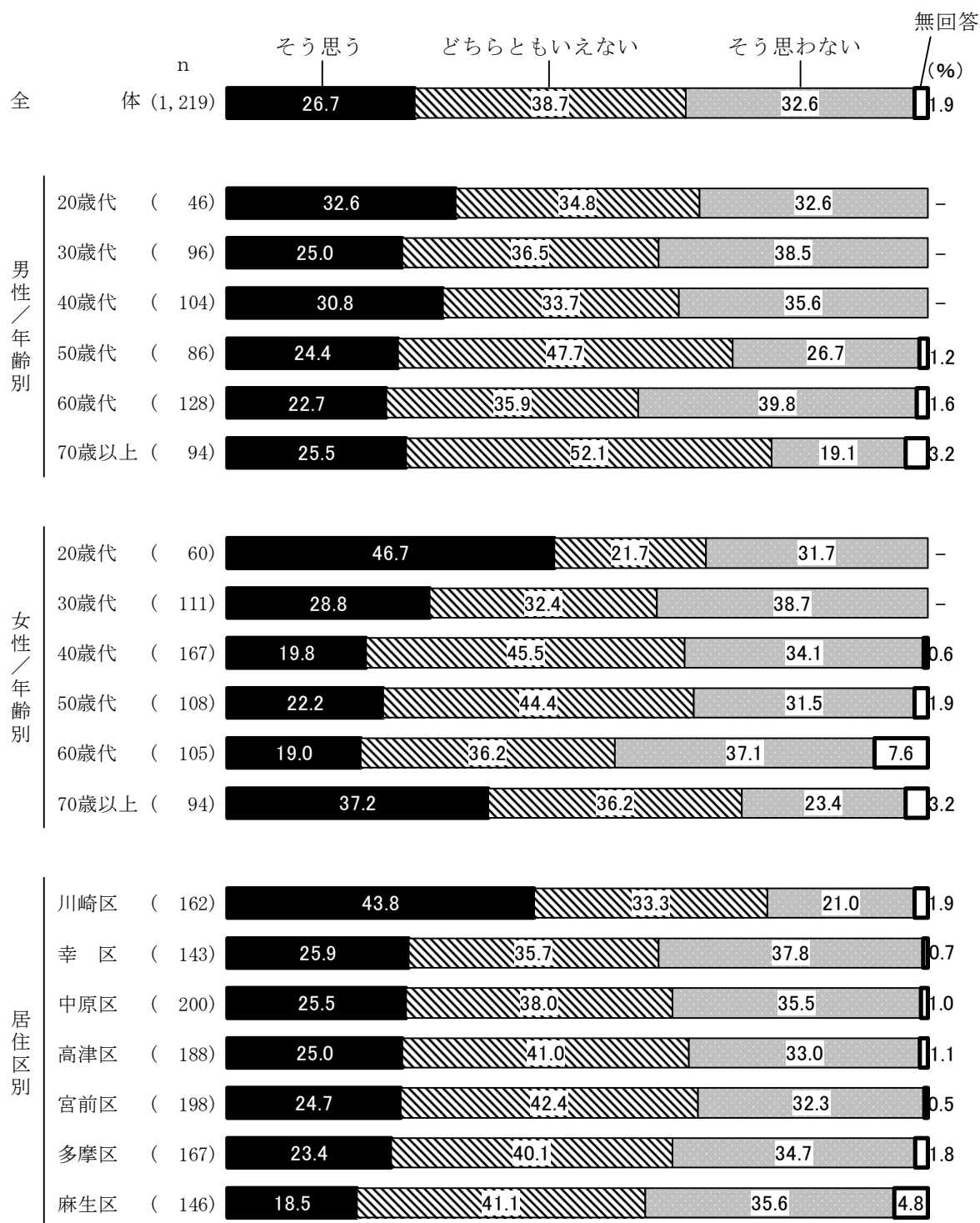


(3) 住居にかかる費用が安くすむについて、性/年齢別では、「そう思わない」は、男性の30歳代(64.6%)、女性の30歳代(54.1%)と40歳代(53.3%)で多くなっています。

居住区別では、「そう思わない」は、中原区(52.5%)で多くなっています。

(第1回アンケート)

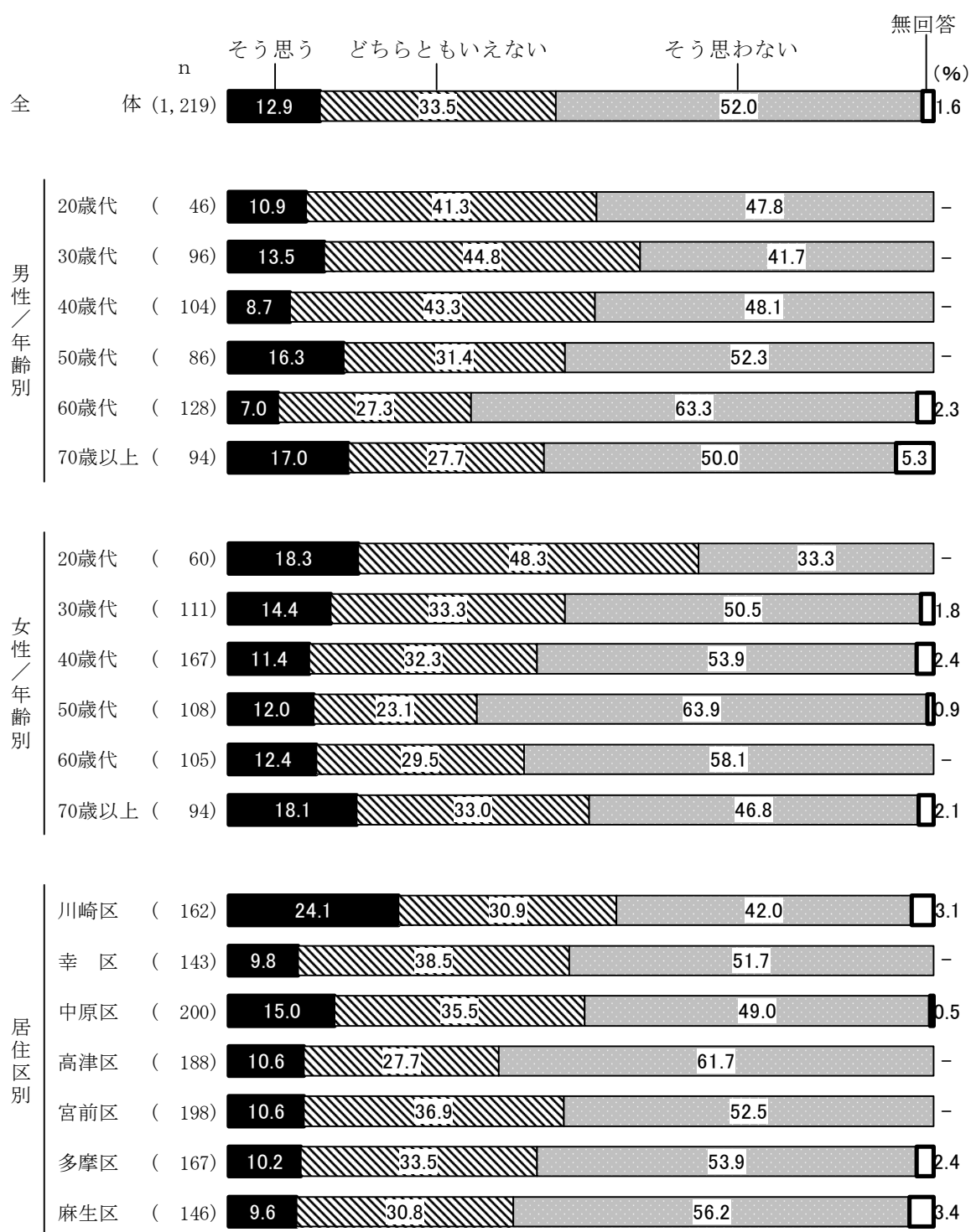
図表1-7 川崎市の魅力(4) 道路が整備され交通が円滑である(性/年齢別・居住区別)



(4) 道路が整備され交通が円滑であるについて、性/年齢別では、「そう思う」は、女性の20歳代(46.7%)と70歳以上(37.2%)で多くなっています。一方「そう思わない」は、男性の60歳代(39.8%)で多くなっています。

居住区別では、「そう思う」は、川崎区(43.8%)で多くなっている一方、麻生区(18.5%)で少なくなっています。

図表1-8 川崎市の魅力(5) 快適な自転車利用環境が整っている(性/年齢別・居住区別)

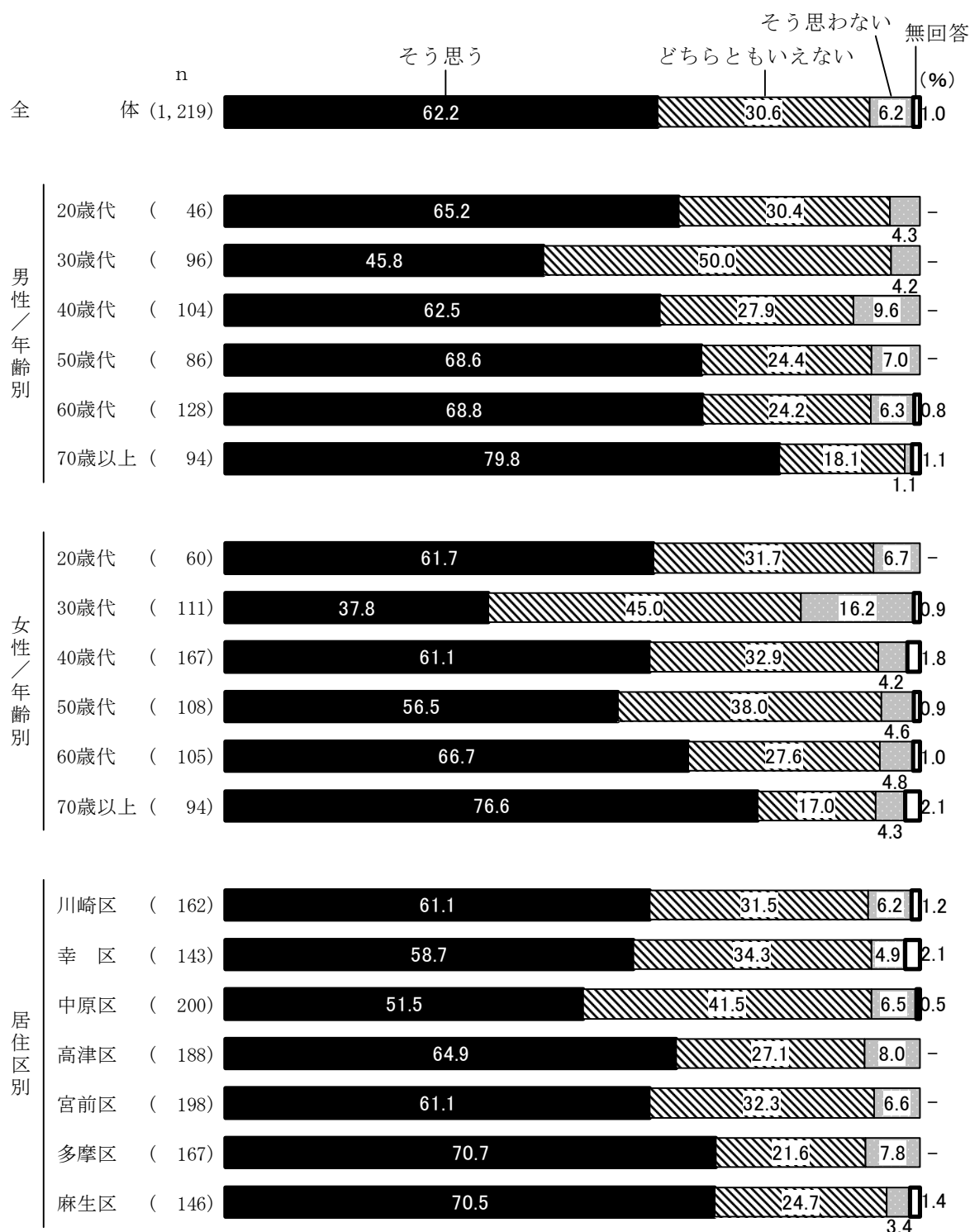


(5) 快適な自転車利用環境が整っているについて、性/年齢別では、「そう思わない」は、女性の50歳代(63.9%)、男性の60歳代(63.3%)の順で多くなっています。

居住区別では、「そう思う」は、川崎区(24.1%)で多くなっています。一方「そう思わない」は、高津区(61.7%)で多くなっています。

(第1回アンケート)

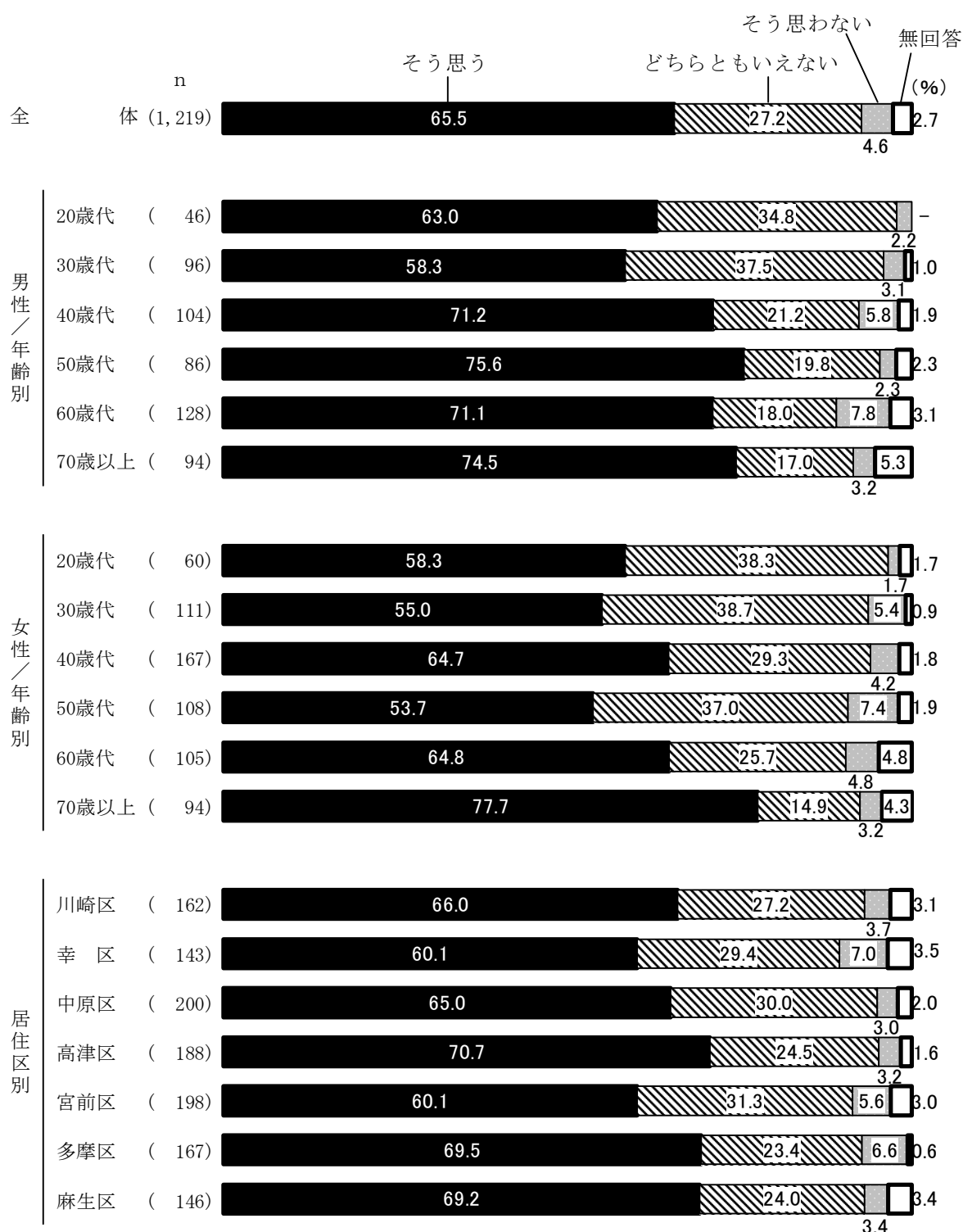
図表1-9 川崎市の魅力(6) 良質な水道水を提供している(性/年齢別・居住区別)



(6) 良質な水道水を提供しているについて、性/年齢別では、「そう思う」は、男女ともに70歳以上(男性:79.8%、女性:76.6%)で多くなっています。一方「そう思わない」は、女性の30歳代(16.2%)で多くなっています。

居住区別では、「そう思う」は、多摩区(70.7%)、麻生区(70.5%)の順で多くなっています。

図表1-10 川崎市の魅力(7) 下水道が整備されている(性/年齢別・居住区別)

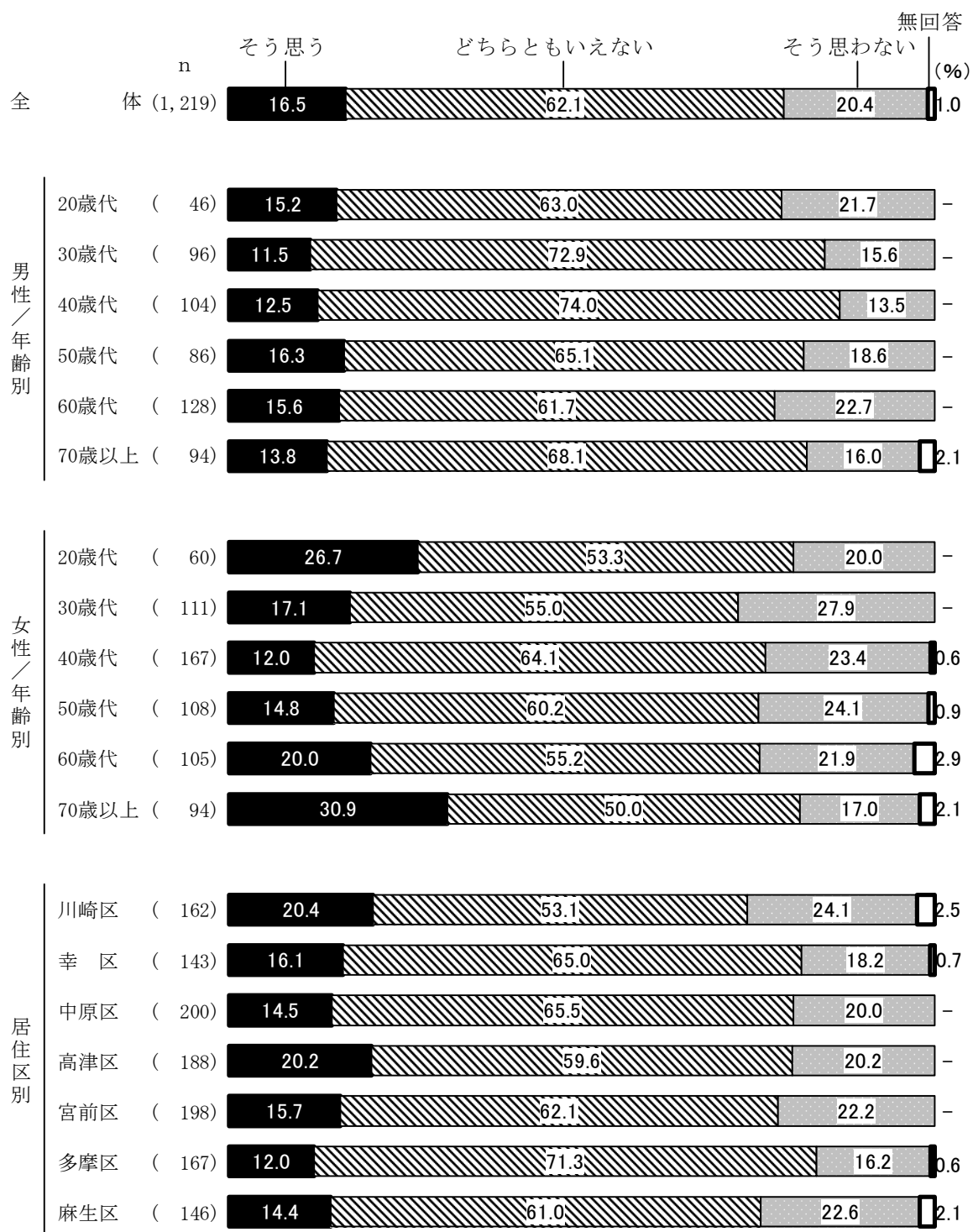


(7) 下水道が整備されているについて、性/年齢別では、「そう思う」は、女性の70歳以上(77.7%)、男性の50歳代(75.6%)、70歳以上(74.5%)の順で多くなっています。

居住区別では、「そう思う」は、高津区(70.7%)、多摩区(69.5%)の順で多くなっています。

(第1回アンケート)

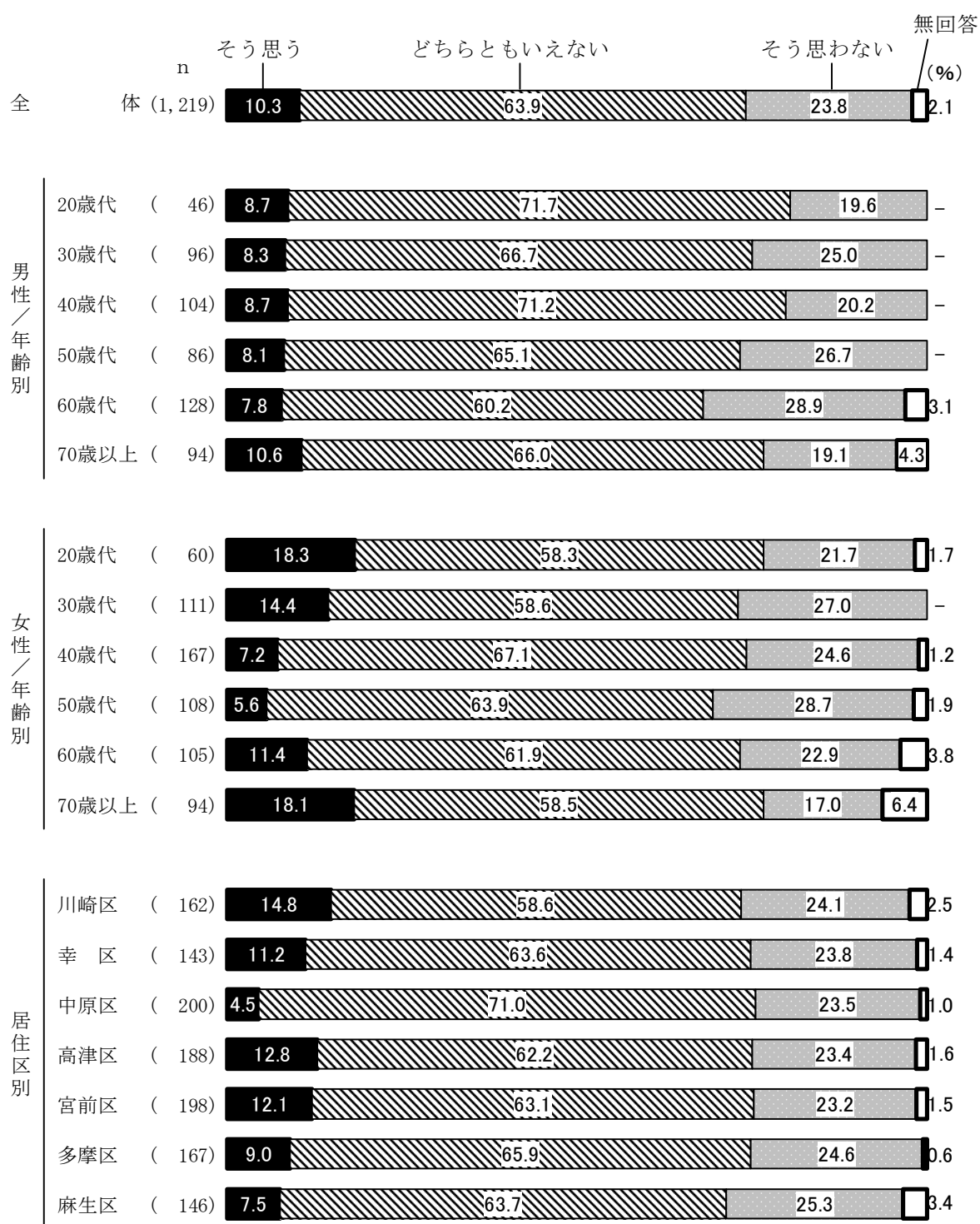
図表1-11 川崎市の魅力(8) 高齢者にとって暮らしやすいまちである(性/年齢別・居住区別)



(8) 高齢者にとって暮らしやすいまちであるについて、性/年齢別では、「そう思う」は、女性の70歳以上(30.9%)、20歳代(26.7%)の順で多くなっています。一方「そう思わない」は、女性の30歳代(27.9%)で多くなっています。

居住区別では、「そう思う」は、川崎区(20.4%)、高津区(20.2%)の順で多くなっています。

図表1-12 川崎市の魅力(9) 障害者にとって暮らしやすいまちである(性/年齢別・居住区別)

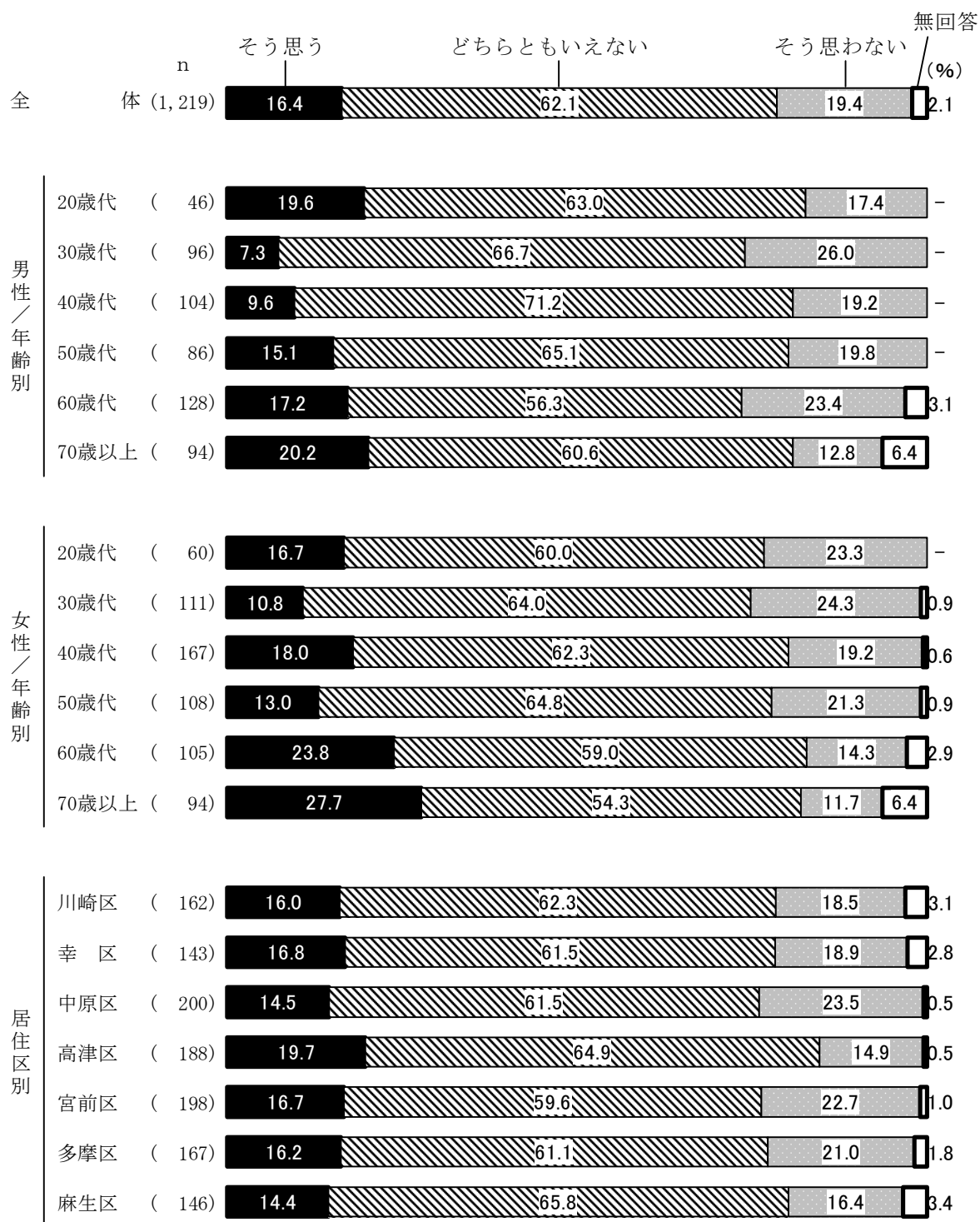


(9) 障害者にとって暮らしやすいまちであるについて、性/年齢別では、「そう思う」は、女性の20歳代(18.3%)と70歳以上(18.1%)で多くなっています。一方「そう思わない」は、男性の60歳代(28.9%)、女性の50歳代(28.7%)で多くなっています。

居住区別では、「そう思う」は、中原区(4.5%)で少なくなっています。

(第1回アンケート)

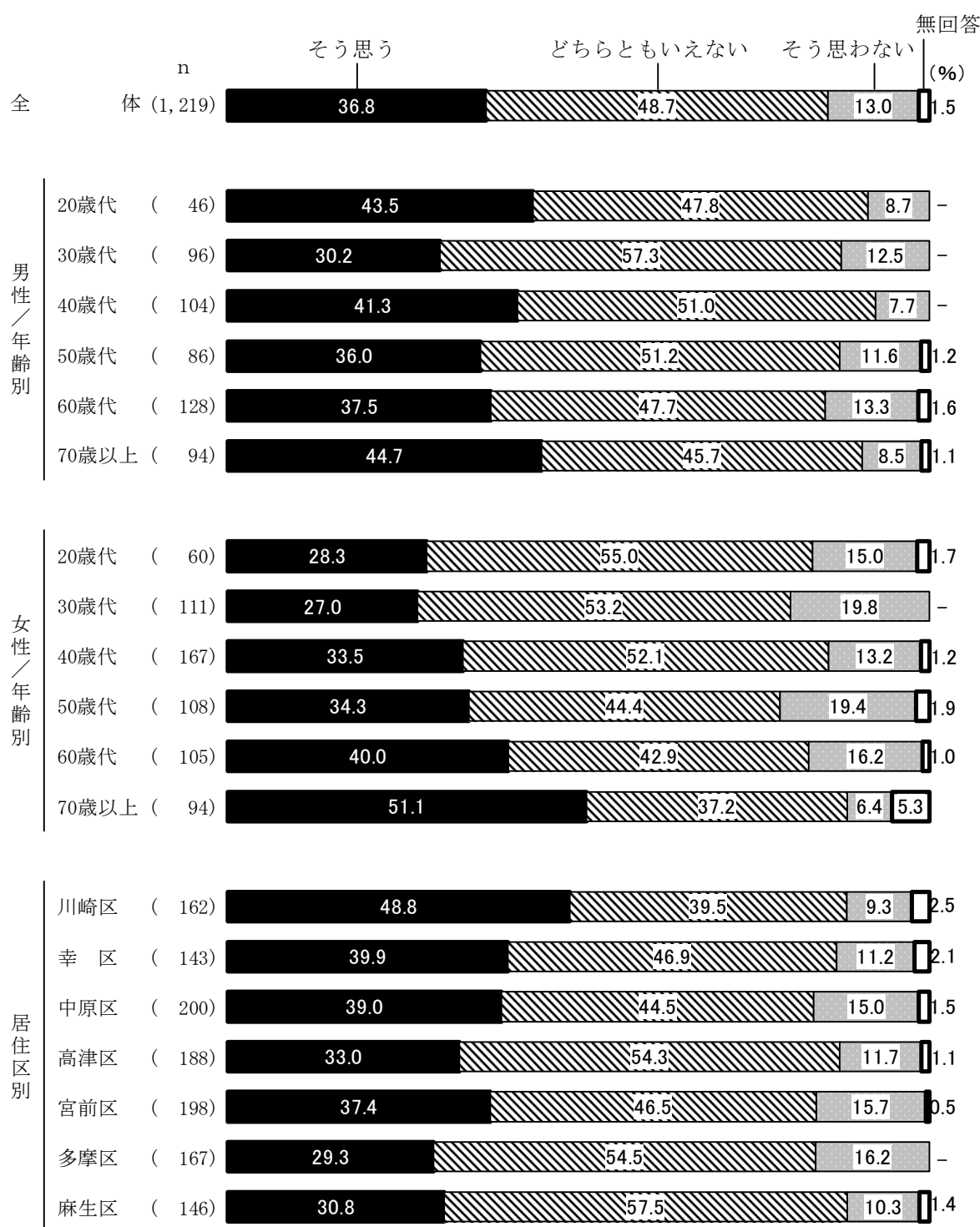
図表1-13 川崎市の魅力(10) 健康維持に向けた取組が充実している(性/年齢別・居住区別)



(10) 健康維持に向けた取組が充実しているについて、性/年齢別では、「そう思う」は、女性の70歳以上(27.7%)、60歳代(23.8%)の順で多くなっています。一方「そう思わない」は、男女ともに30歳代(男性:26.0%、女性:24.3%)で多くなっています。

居住区別では、「そう思う」は、高津区(19.7%)で多くなっています。

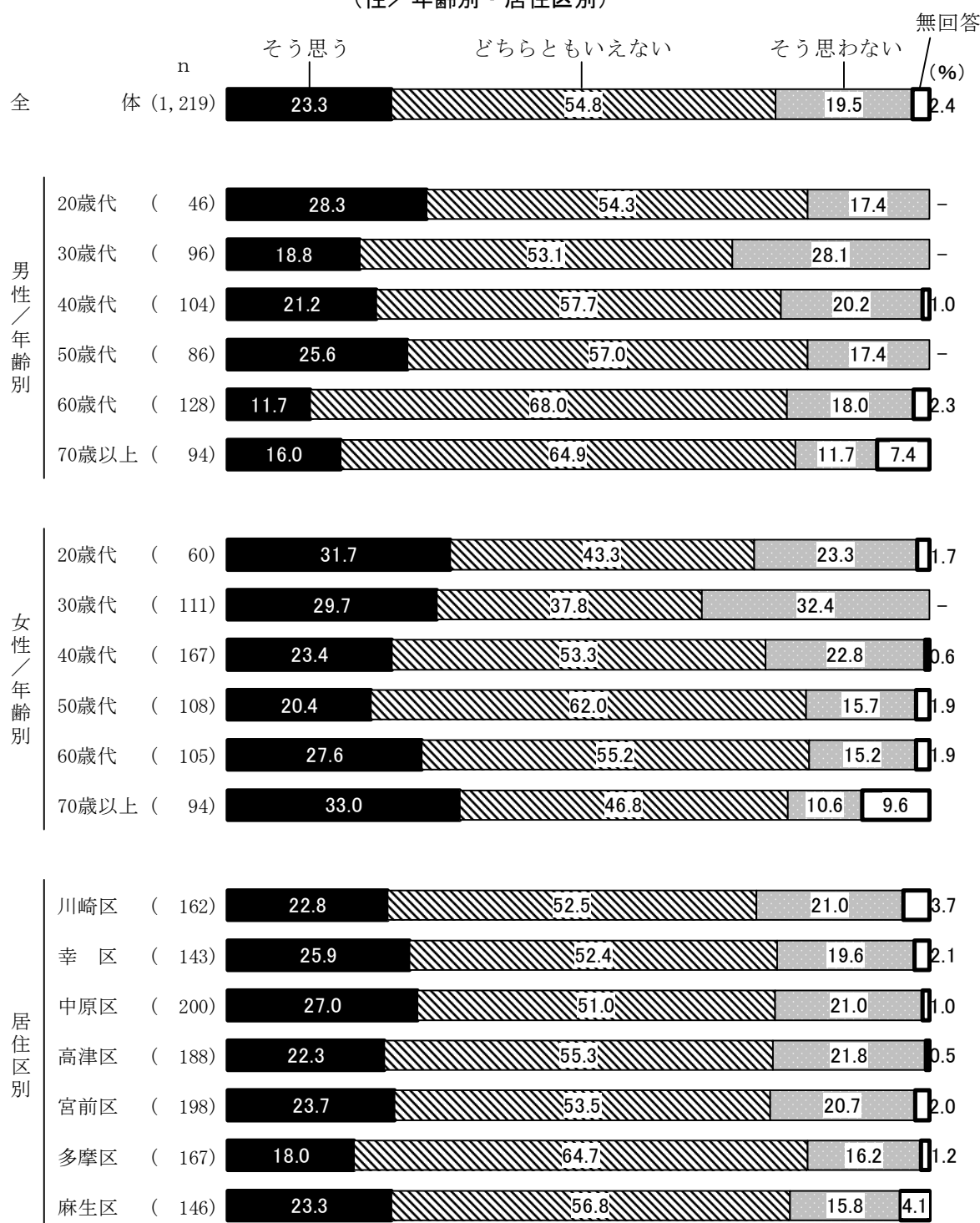
図表1-14 川崎市の魅力(11) 医療機関・救急体制が充実している(性/年齢別・居住区別)



(11) 医療機関・救急体制が充実しているについて、性/年齢別では、「そう思う」は、男女ともに70歳以上(男性:44.7%、女性:51.1%)で多くなっています。一方「そう思わない」は、女性の30歳代(19.8%)と50歳代(19.4%)で多くなっています。

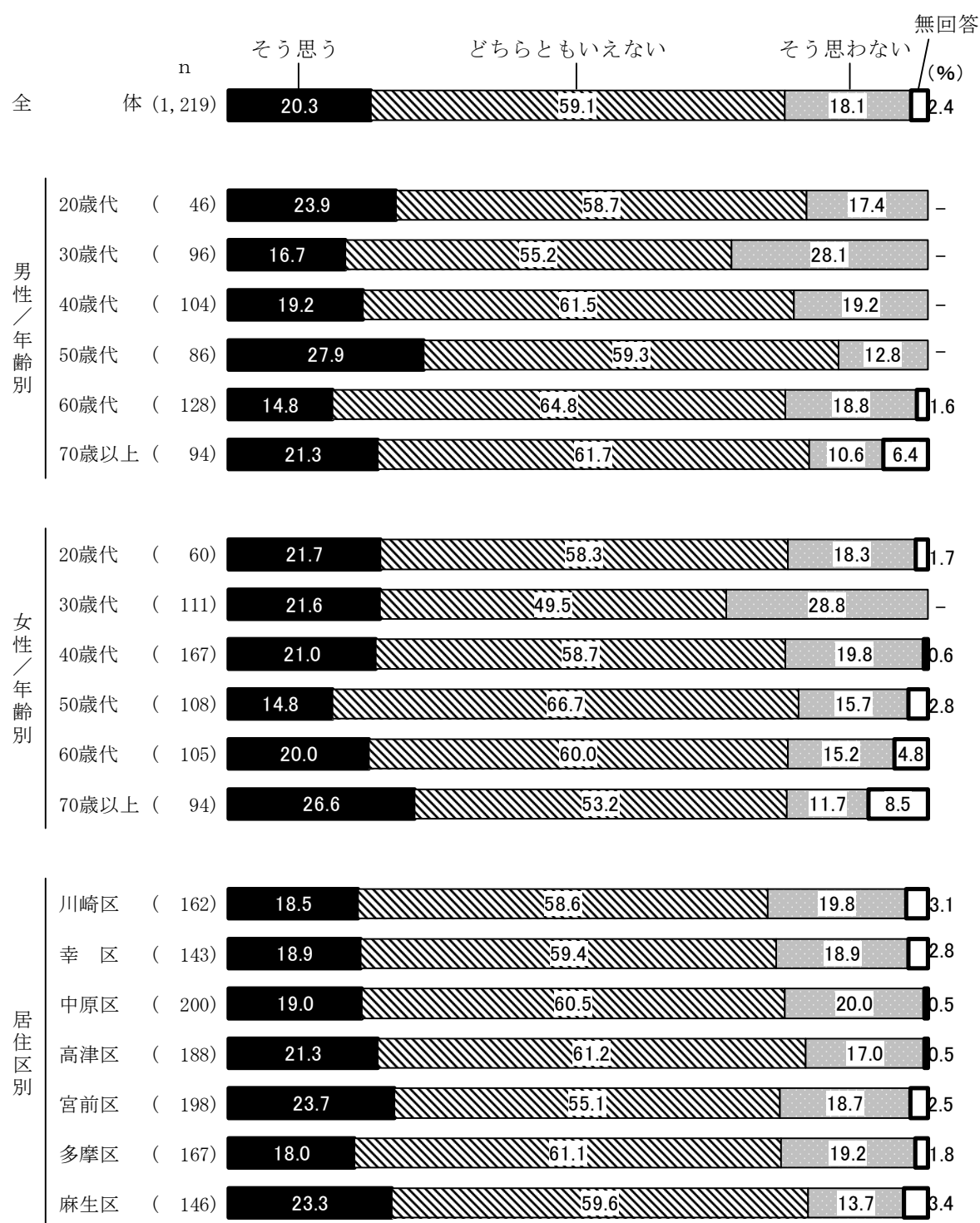
居住区別では、「そう思う」は、川崎区(48.8%)で多くなっている一方、多摩区(29.3%)、麻生区(30.8%)で少なくなっています。

図表1-15 川崎市の魅力(12) 子育て世代・子ども自身にとって暮らしやすいまちである
(性/年齢別・居住区別)



(12) 子育て世代・子ども自身にとって暮らしやすいまちであるについて、性/年齢別では、「そう思う」は、女性の70歳以上(33.0%)、20歳代(31.7%)の順で多くなっています。一方「そう思わない」は、男女ともに30歳代(男性:28.1%、女性:32.4%)で多くなっています。居住区別では、「そう思う」は、中原区(27.0%)で多くなっている一方、多摩区(18.0%)で少なくなっています。

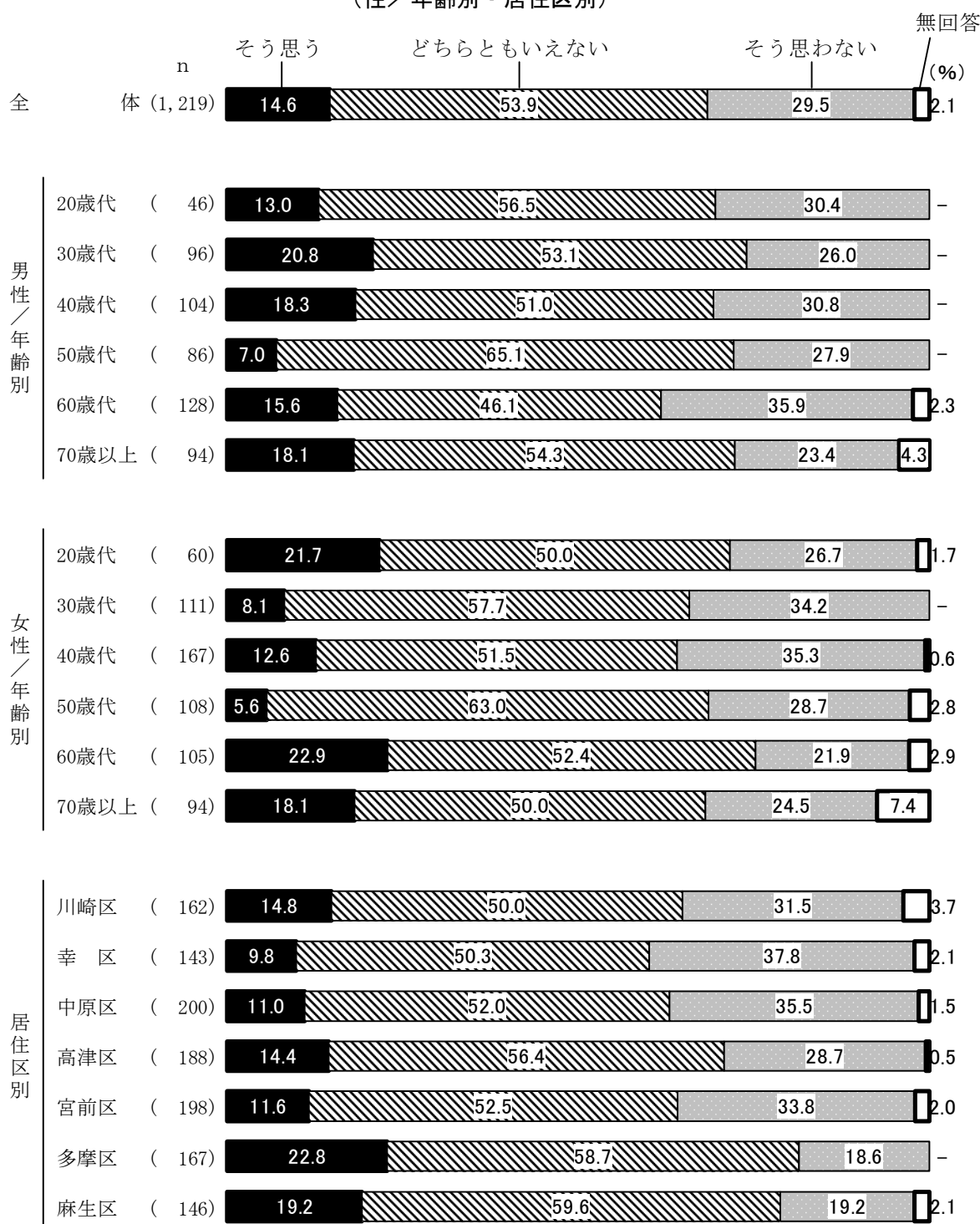
図表 1-16 川崎市の魅力 (13) 子どもの教育環境が充実している (性/年齢別・居住区別)



(13) 子どもの教育環境が充実しているについて、性/年齢別では、「そう思う」は、男性の50歳代 (27.9%)、女性の70歳以上 (26.6%) の順で多くなっています。一方「そう思わない」は、女性の30歳代 (28.8%)、男性の30歳代 (28.1%) の順で多くなっています。

居住区別では、「そう思う」は、宮前区 (23.7%)、麻生区 (23.3%) の順で多くなっています。

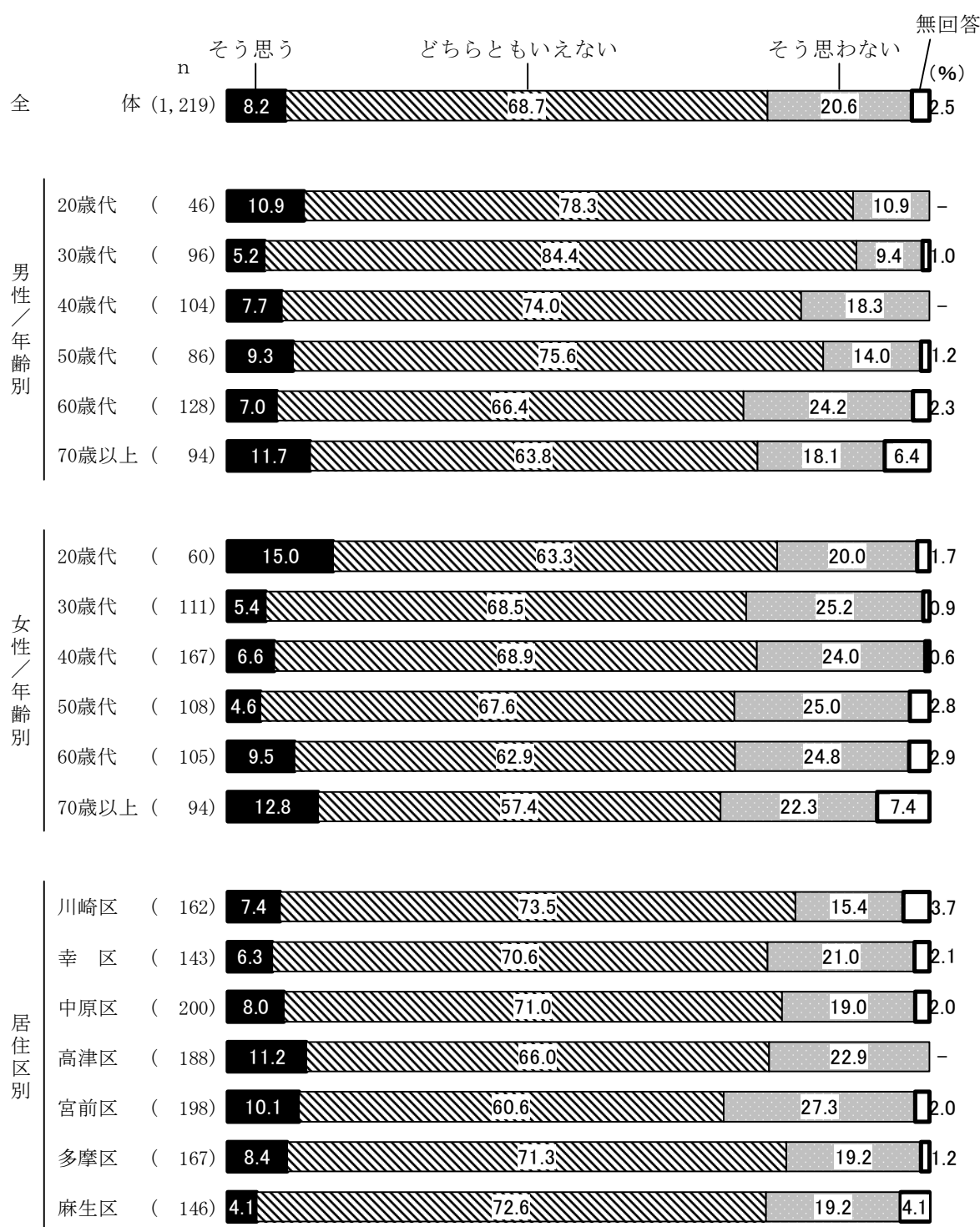
図表1-17 川崎市の魅力 (14) 高等教育機関 (大学、専門学校等) が充実している
(性／年齢別・居住区別)



(14) 高等教育機関 (大学、専門学校等) が充実しているについて、性／年齢別では、「そう思う」は、女性の60歳代 (22.9%)、20歳代 (21.7%) の順で多くなっています。一方「そう思わない」は、男性の60歳代 (35.9%)、女性の40歳代 (35.3%) の順で多くなっています。

居住区別では、「そう思う」は、多摩区 (22.8%) で多くなっています。一方「そう思わない」は、幸区 (37.8%)、中原区 (35.5%) の順で多くなっています。

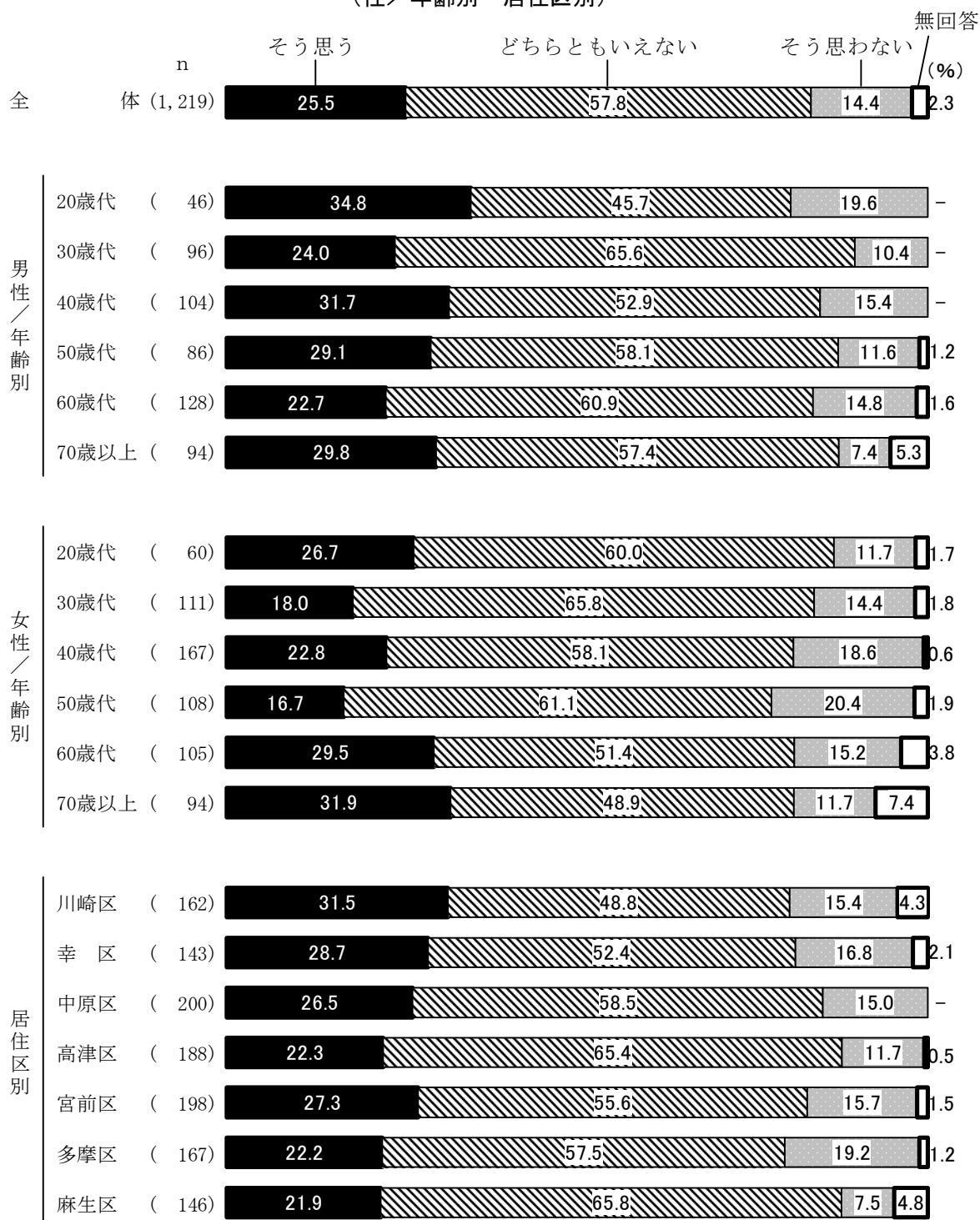
図表1-18 川崎市の魅力(15) 女性の地位など人権に配慮している(性/年齢別・居住区別)



(15) 女性の地位など人権に配慮しているについて、性/年齢別では、「そう思う」は、女性の20歳代(15.0%)で多くなっています。一方「そう思わない」は、女性の全年代、男性の60歳代でいずれも2割台となっています。

居住区別では、「そう思う」は、高津区(11.2%)で多くなっています。一方「そう思わない」は、宮前区(27.3%)で多くなっています。

図表1-19 川崎市の魅力(16) 地球環境配慮や公害防止のための取組が充実している
(性／年齢別・居住区別)

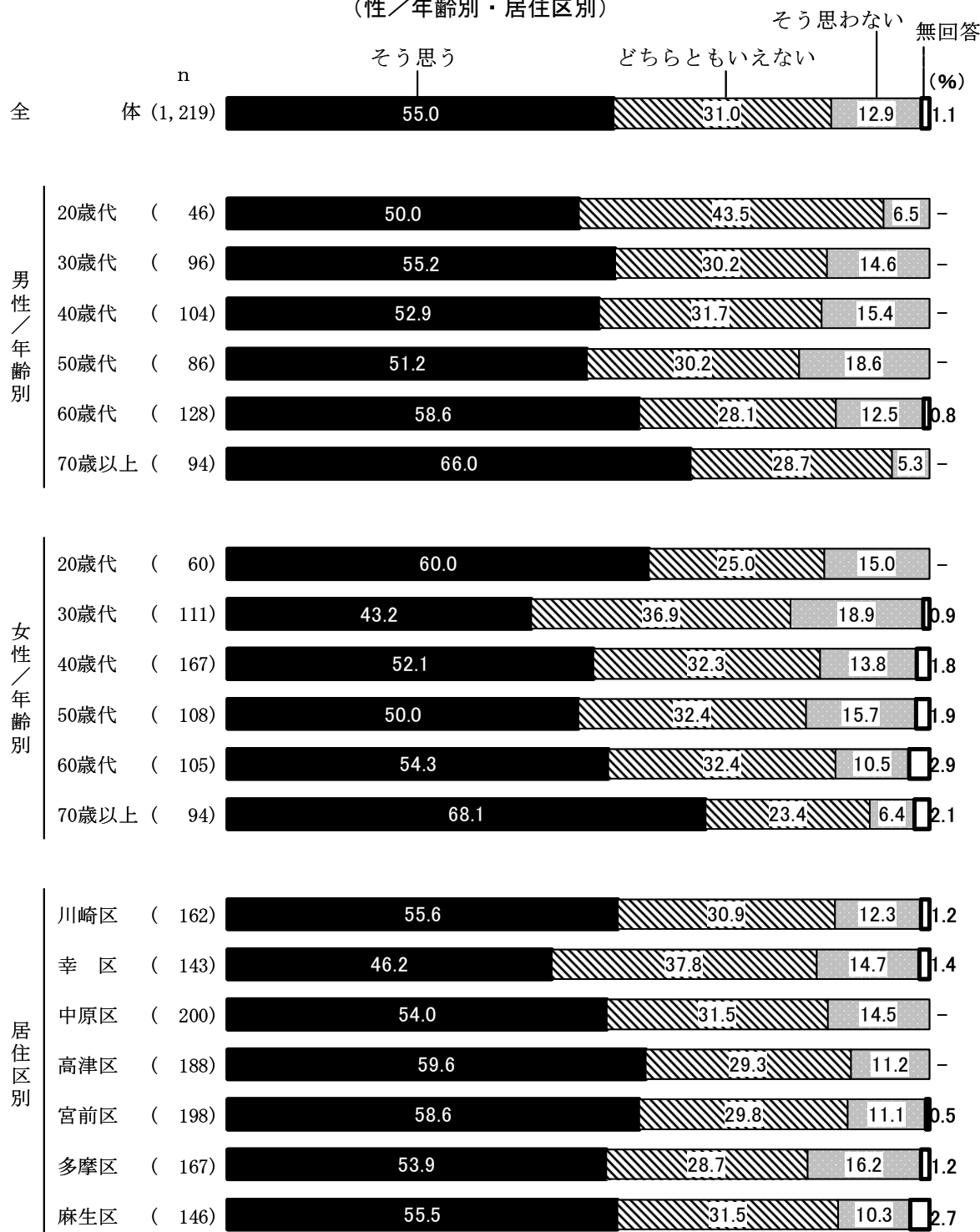


(16) 地球環境配慮や公害防止のための取組が充実しているについて、性／年齢別では、「そう思う」は、男性の20歳代(34.8%)で多くなっています。一方「そう思わない」は、女性の50歳代(20.4%)で多くなっています。

居住区別では、「そう思う」は、川崎区(31.5%)で多くなっています。一方「そう思わない」は、多摩区(19.2%)で多くなっています。

図表1-20 川崎市の魅力(17) ごみ収集や資源のリサイクル制度が充実している

(性／年齢別・居住区別)

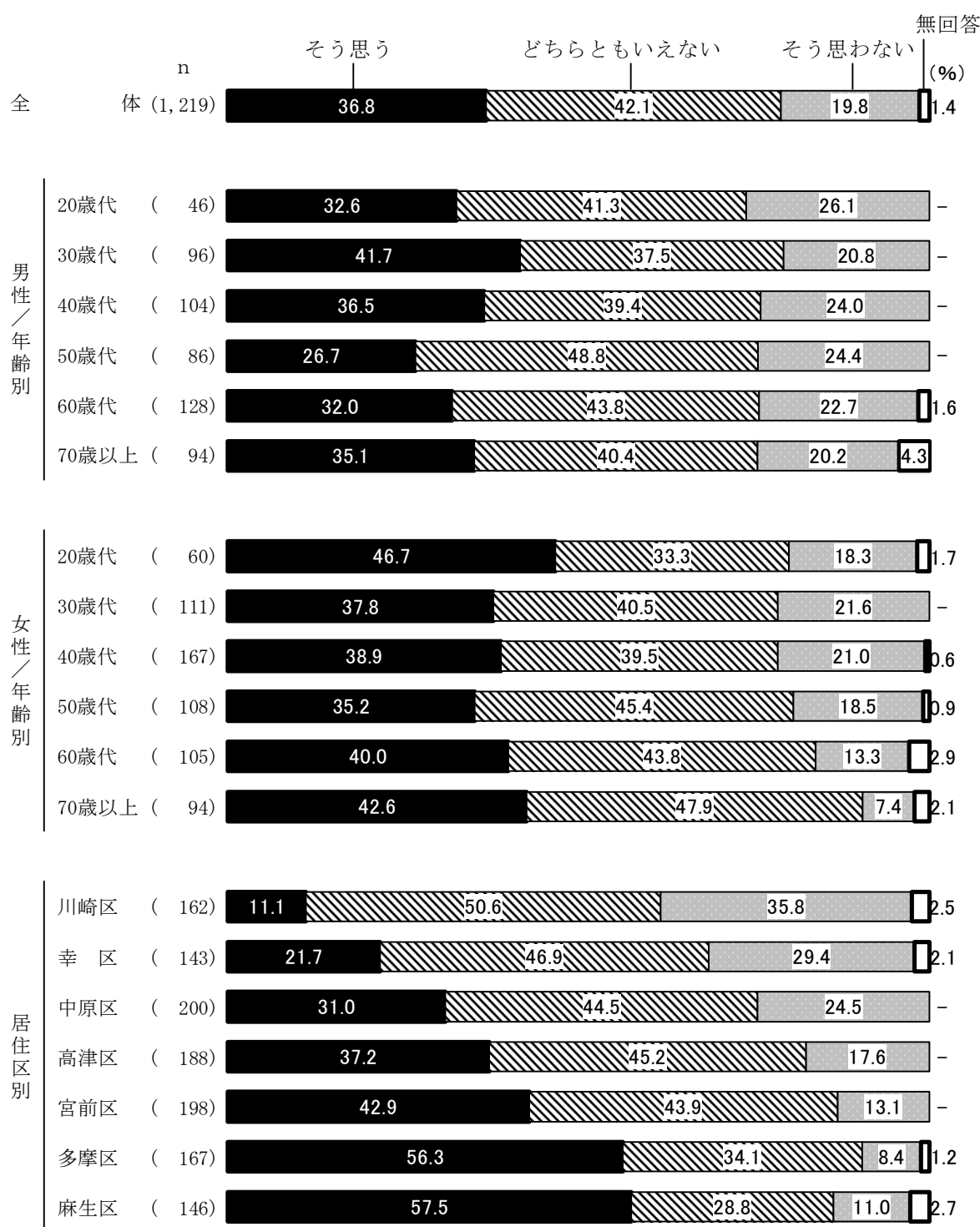


(17) ごみ収集や資源のリサイクル制度が充実しているについて、性／年齢別では、「そう思う」は、女性の70歳以上(68.1%)、男性の70歳以上(66.0%)の順で多くなっています。一方「そう思わない」は、女性の30歳代(18.9%)、男性の50歳代(18.6%)の順で多くなっています。

居住区別では、「そう思う」は、高津区(59.6%)で多くなっている一方、幸区(46.2%)で少なくなっています。

(第1回アンケート)

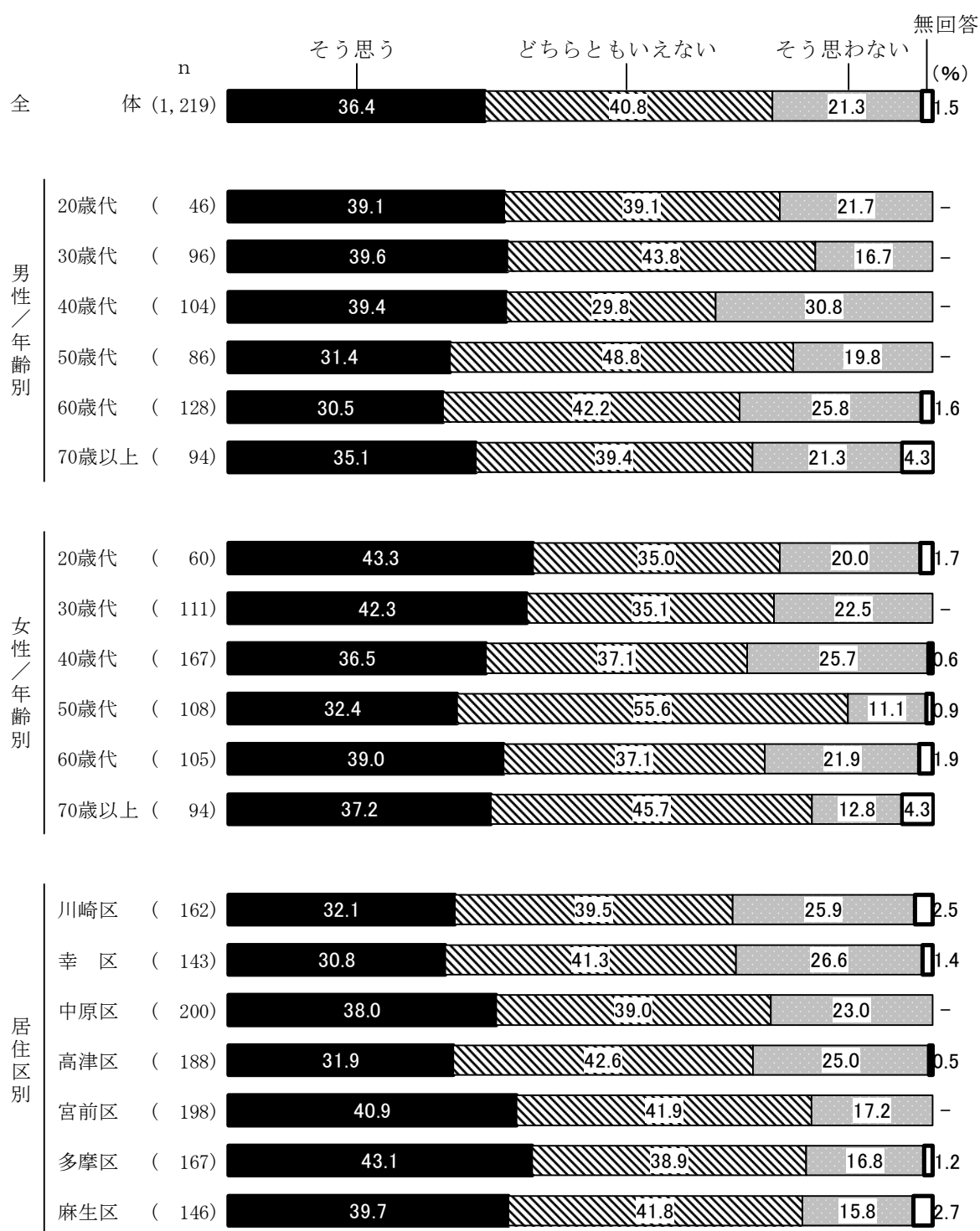
図表1-21 川崎市の魅力(18) 豊かな自然環境に恵まれている(性/年齢別・居住区別)



(18) 豊かな自然環境に恵まれているについて、性/年齢別では、「そう思う」は、女性の20歳代(46.7%)で多くなっています。一方「そう思わない」は、男性の20歳代(26.1%)で多くなっています。

居住区別では、「そう思う」は、麻生区(57.5%)、多摩区(56.3%)の順で多くなっています。一方「そう思わない」は、川崎区(35.8%)、幸区(29.4%)の順で多くなっています。

図表1-22 川崎市の魅力(19) 親しみやすい公園や広場に恵まれている(性/年齢別・居住区別)

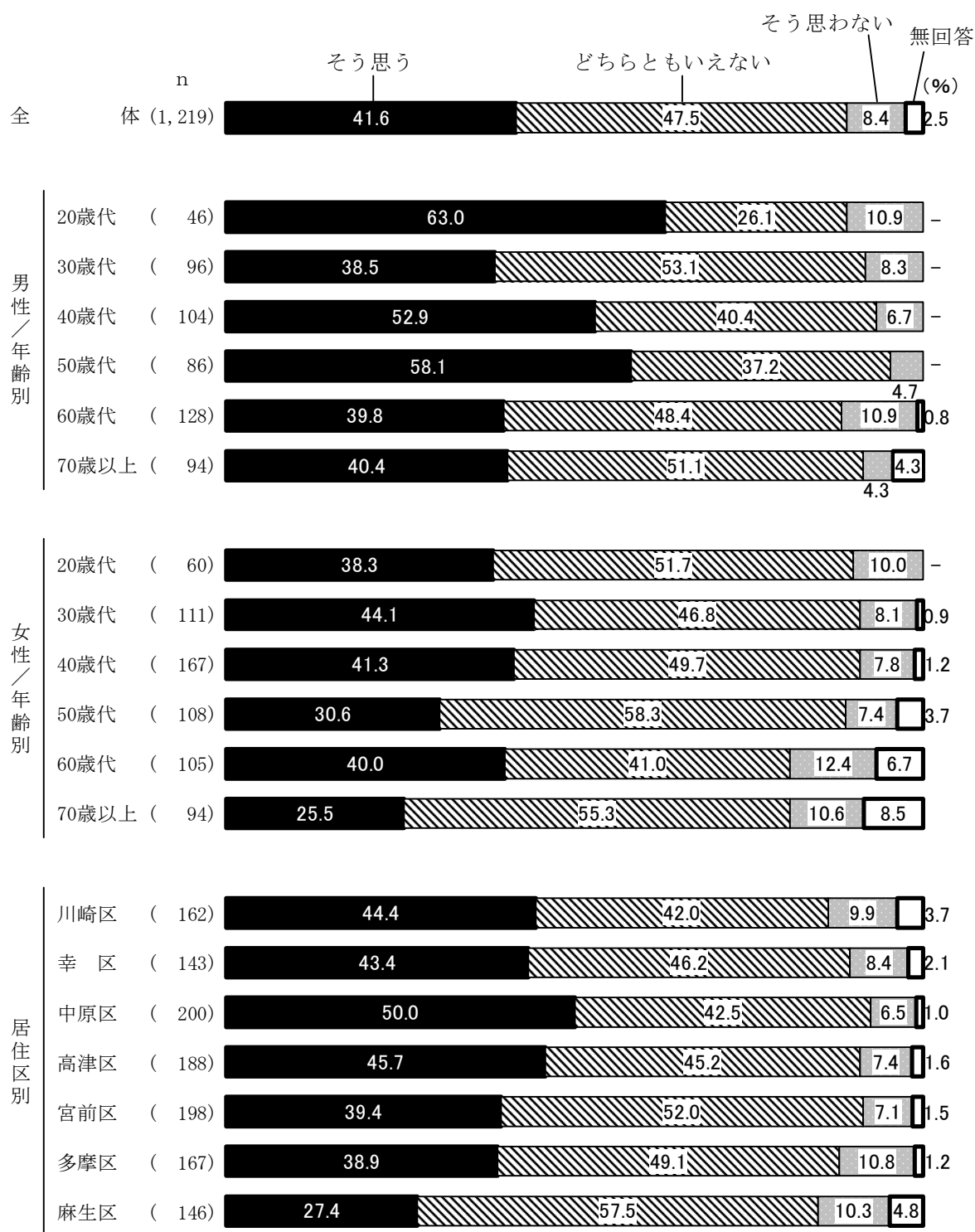


(19) 親しみやすい公園や広場に恵まれているについて、性/年齢別では、「そう思う」は、女性の20歳代(43.3%)、30歳代(42.3%)の順で多くなっています。一方「そう思わない」は、男性の40歳代(30.8%)、60歳代(25.8%)の順で多くなっています。

居住区別では、「そう思う」は、多摩区(43.1%)、宮前区(40.9%)の順で多くなっています。一方「そう思わない」は、幸区(26.6%)、川崎区(25.9%)の順で多くなっています。

(第1回アンケート)

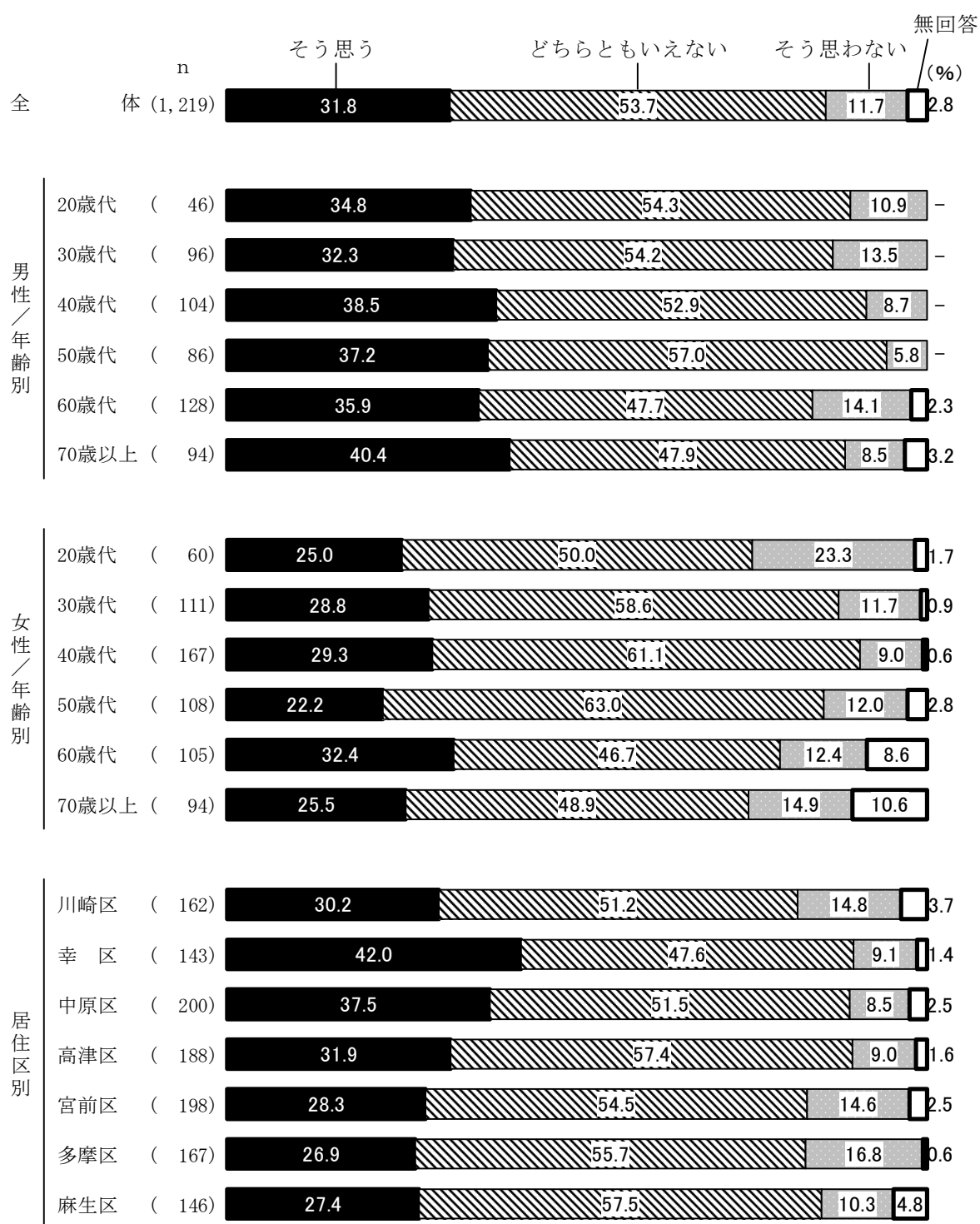
図表1-23 川崎市の魅力(20) ものづくりなど産業活動が盛んである(性/年齢別・居住区別)



(20) ものづくりなど産業活動が盛んであるについて、性/年齢別では、「そう思う」は、男性の20歳代(63.0%)、50歳代(58.1%)、40歳代(52.9%)の順で多くなっています。

居住区別では、「そう思う」は、中原区(50.0%)で多くなっている一方、麻生区(27.4%)で少なくなっています。

図表1-24 川崎市の魅力(21) 先端企業・研究開発機関が集積している(性/年齢別・居住区別)

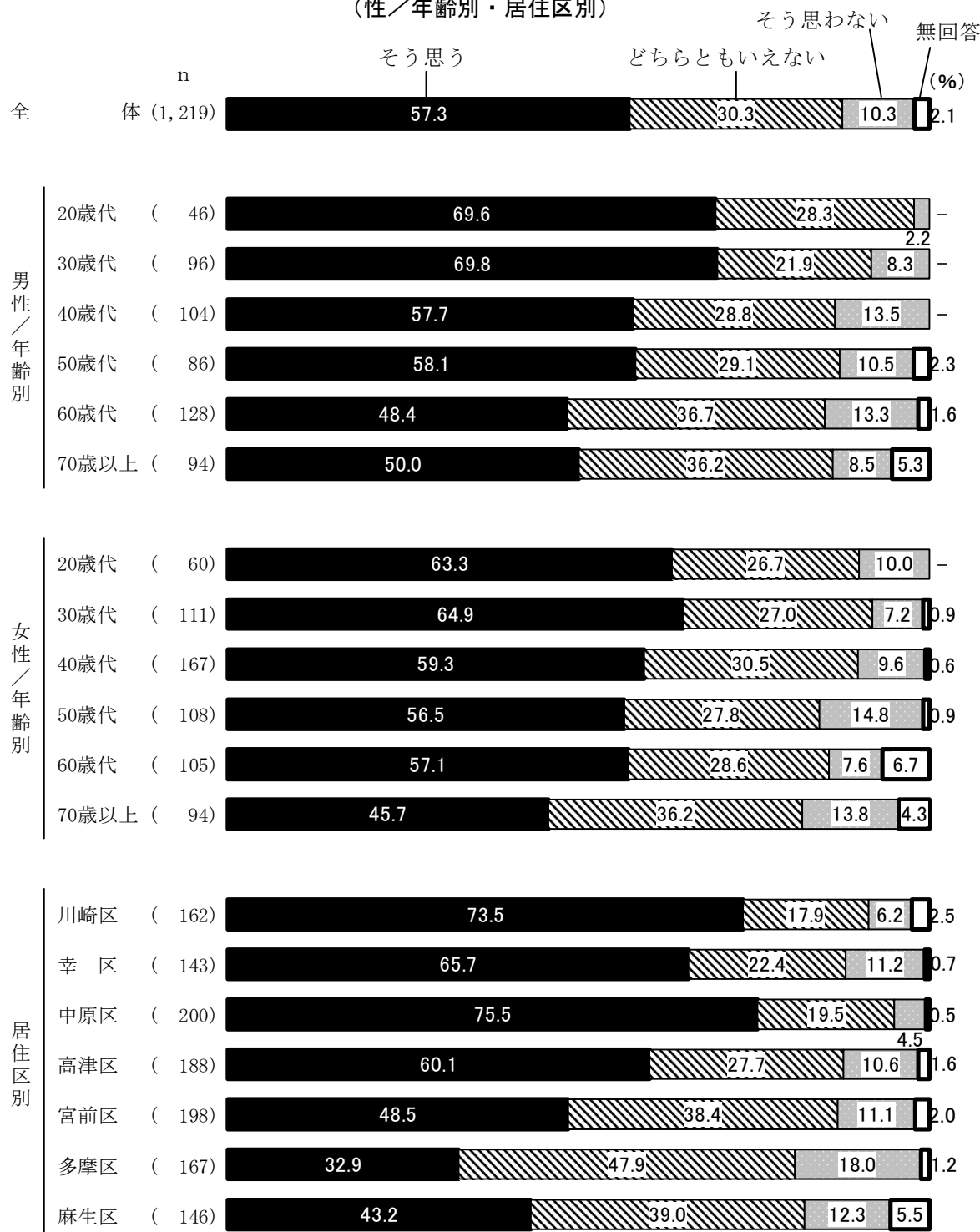


(21) 先端企業・研究開発機関が集積しているについて、性/年齢別では、「そう思う」は、男性の70歳以上(40.4%)で多くなっています。一方「そう思わない」は、女性の20歳代(23.3%)で多くなっています。

居住区別では、「そう思う」は、幸区(42.0%)で多くなっています。一方「そう思わない」は、多摩区(16.8%)で多くなっています。

図表1-25 川崎市の魅力(22) 主要駅周辺の再開発などにより街がにぎわっている

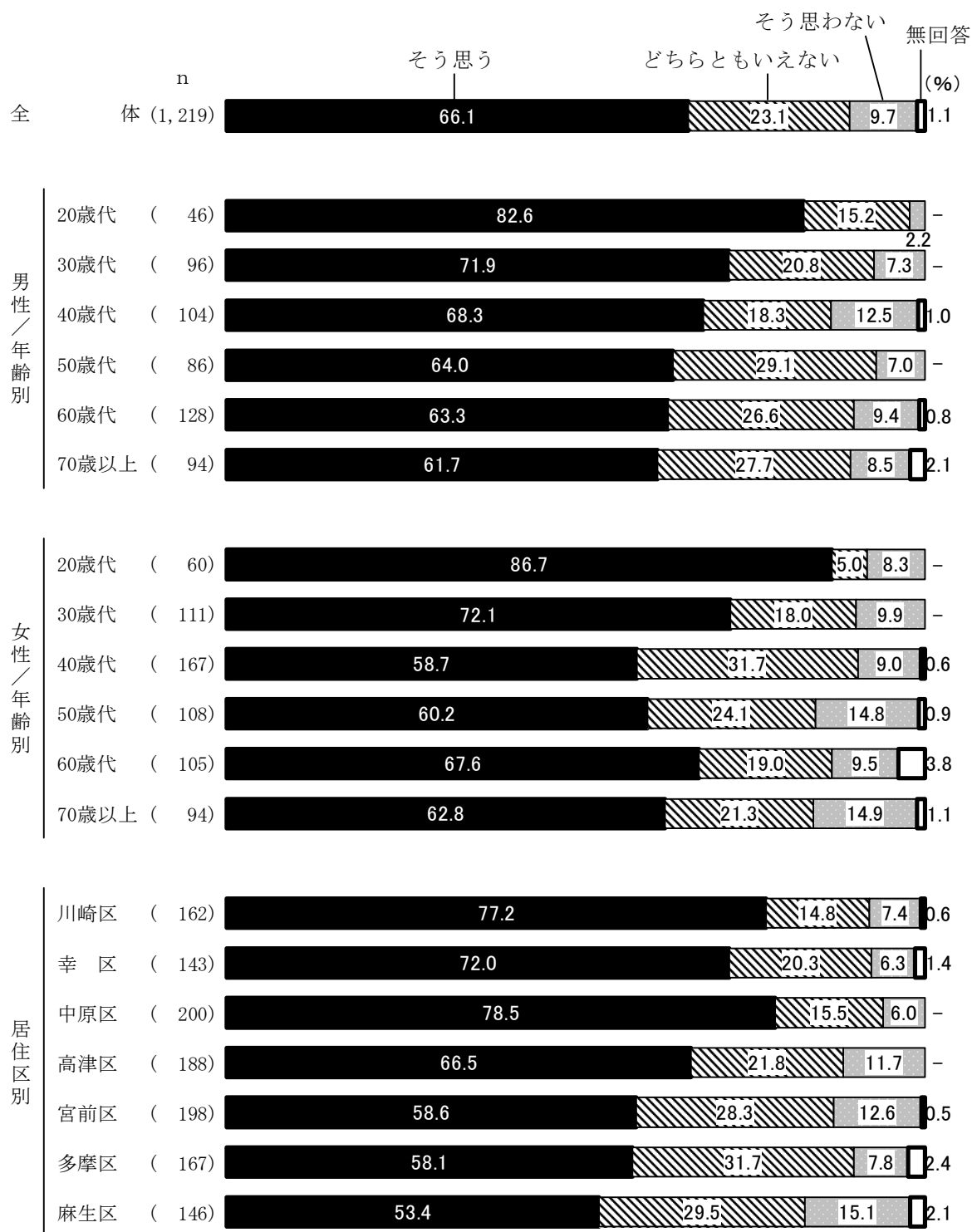
(性/年齢別・居住区別)



(22) 主要駅周辺の再開発などにより街がにぎわっているについて、性/年齢別では、「そう思う」は、男性の30歳代(69.8%)、20歳代(69.6%)の順で多くなっている一方、女性の70歳以上(45.7%)で少なくなっています。

居住区別では、「そう思う」は、中原区(75.5%)、川崎区(73.5%)の順で多くなっている一方、多摩区(32.9%)で少なくなっています。

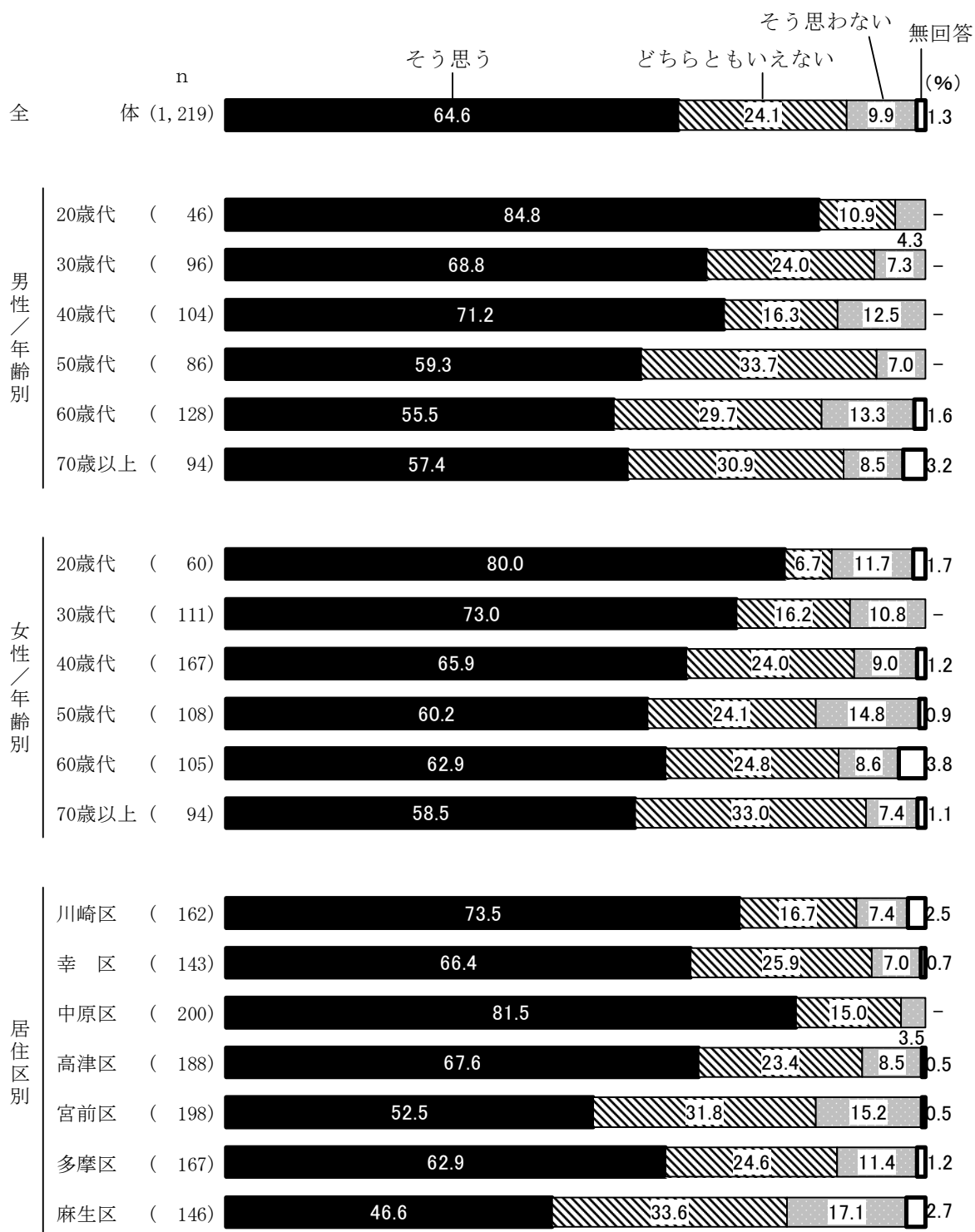
図表 1-26 川崎市の魅力 (23) 買い物など日常生活が便利である (性/年齢別・居住区別)



(23) 買い物など日常生活が便利であるについて、性/年齢別では、「そう思う」は、女性の20歳代 (86.7%)、男性の20歳代 (82.6%) の順で多くなっている一方、「そう思わない」は、女性の70歳以上 (14.9%)、50歳代 (14.8%) の順で多くなっています。

居住区別では、「そう思う」は、中原区 (78.5%)、川崎区 (77.2%) の順で多くなっている一方、「そう思わない」は、麻生区 (15.1%)、宮前区 (12.6%) の順で多くなっています。

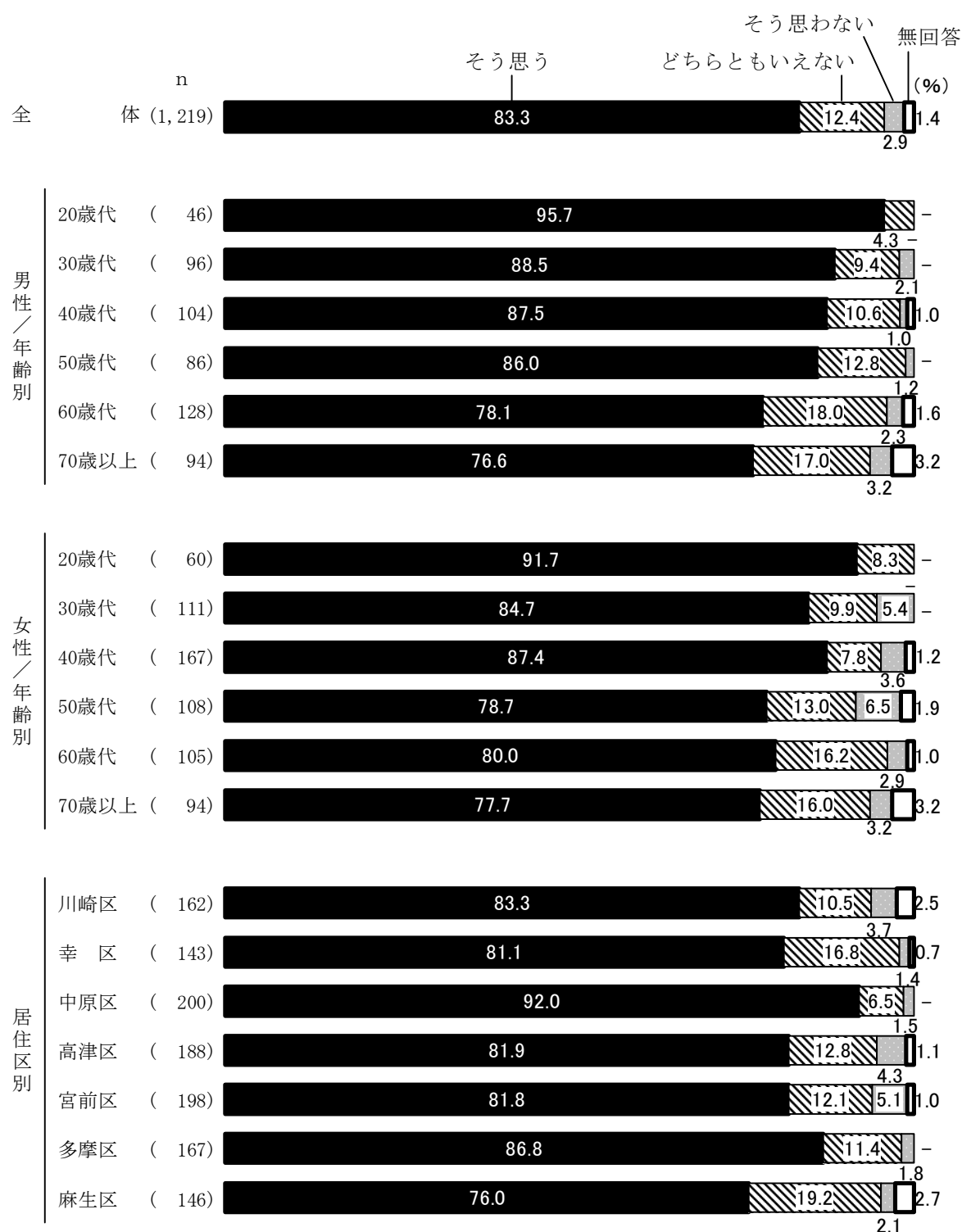
図表1-27 川崎市の魅力(24) 公共交通の利便性が高い(性/年齢別・居住区別)



(24) 公共交通の利便性が高いについて、性/年齢別では、「そう思う」は、男性の20歳代(84.8%)、女性の20歳代(80.0%)の順で多くなっている一方、「そう思わない」は、女性の50歳代(14.8%)、男性の60歳代(13.3%)の順で多くなっています。

居住区別では、「そう思う」は、中原区(81.5%)、川崎区(73.5%)の順で多くなっています。一方「そう思わない」は、麻生区(17.1%)、宮前区(15.2%)の順で多くなっています。

図表1-28 川崎市の魅力(25) 都心にアクセスしやすい立地である(性/年齢別・居住区別)

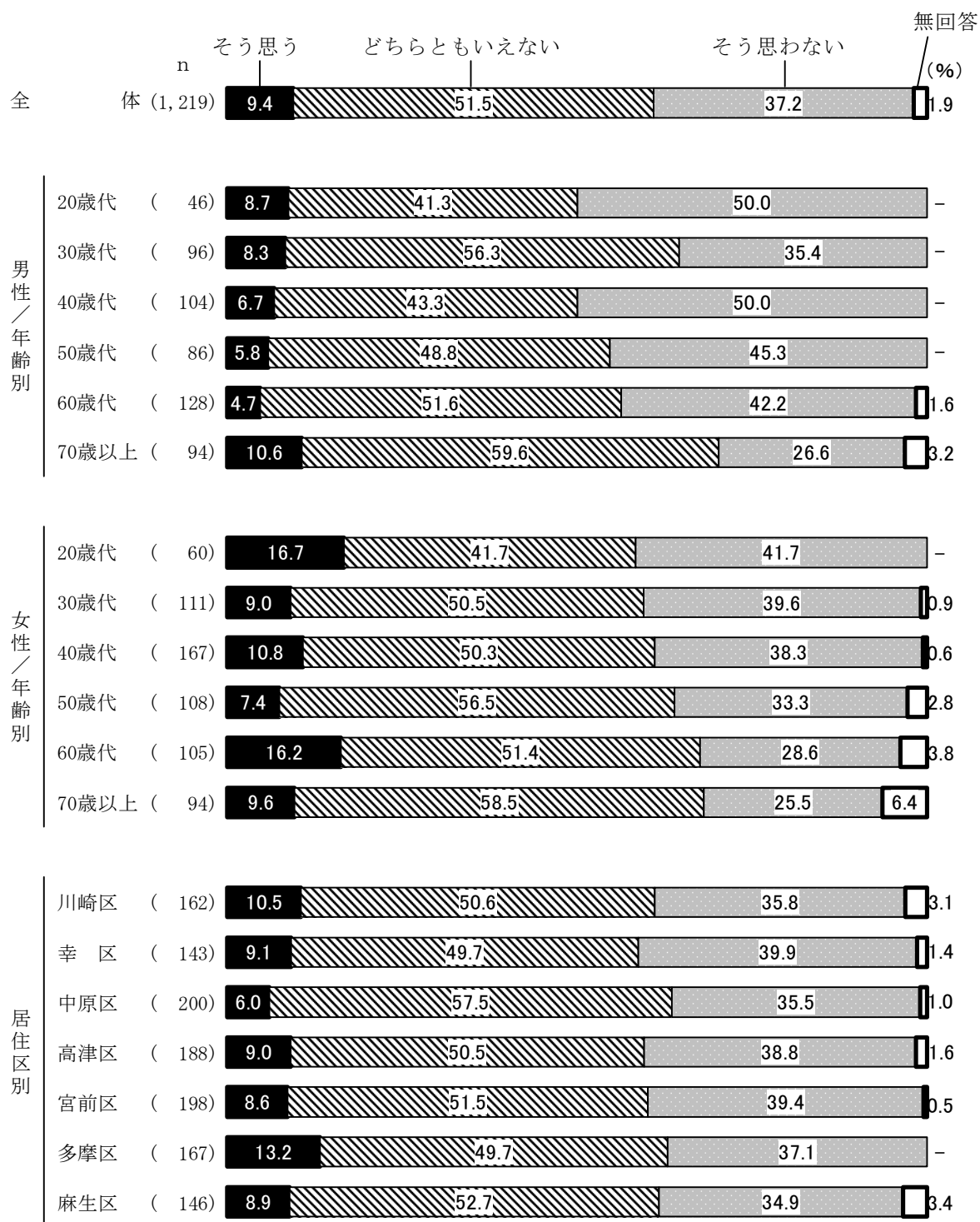


(25) 都心にアクセスしやすい立地であるについて、性/年齢別では、「そう思う」は、男性の20歳代(95.7%)、女性の20歳代(91.7%)の順で多くなっている一方、「そう思わない」は、女性の50歳代(6.5%)で多くなっています。

居住区別では、「そう思う」は、中原区(92.0%)で多くなっている一方、「そう思わない」は、宮前区(5.1%)で多くなっています。

(第1回アンケート)

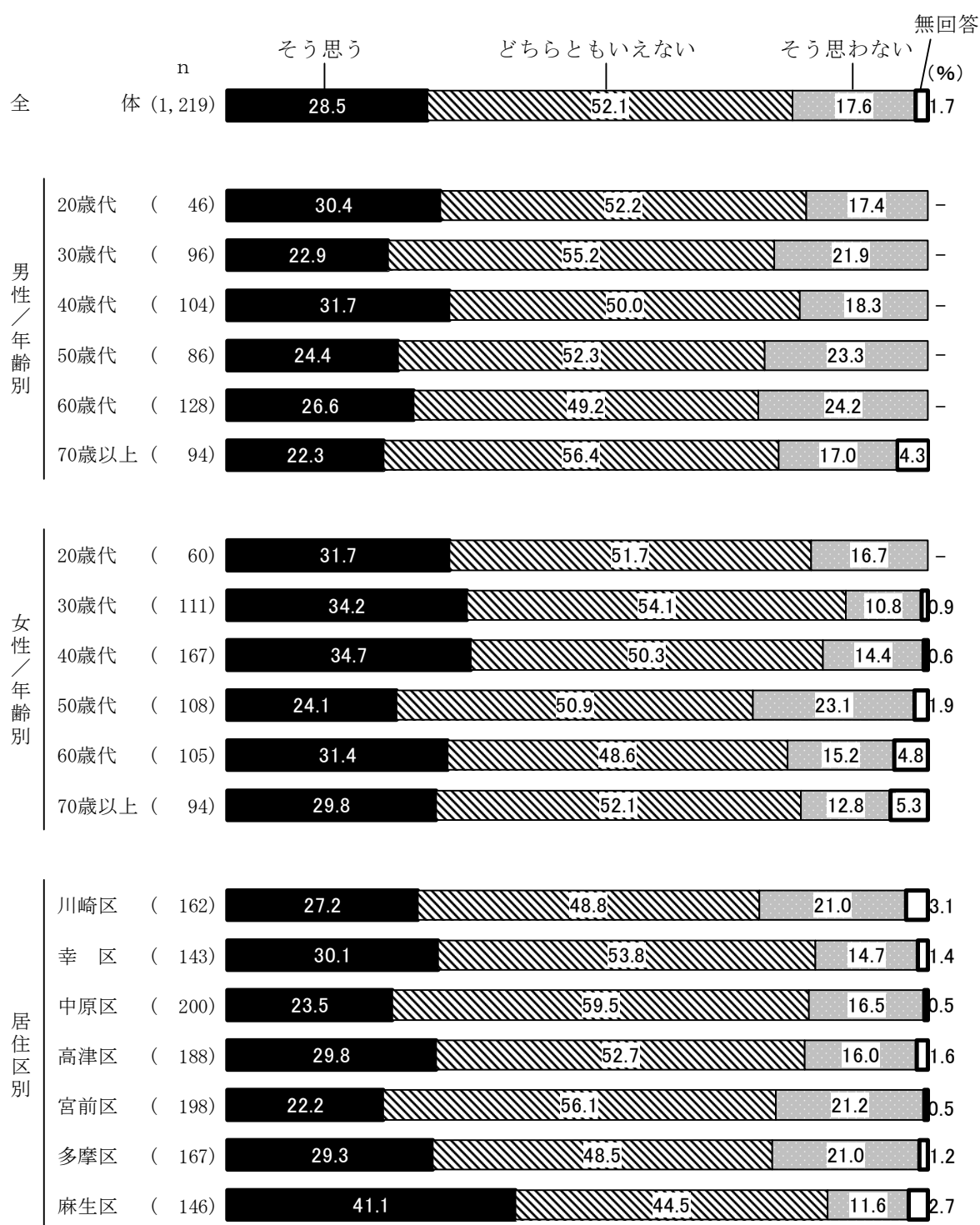
図表1-29 川崎市の魅力(26) 観光資源に恵まれ地域のイメージがよい(性/年齢別・居住区別)



(26) 観光資源に恵まれ地域のイメージがよいについて、性/年齢別では、「そう思う」は、女性の20歳代(16.7%)、60歳代(16.2%)の順で多くなっています。一方「そう思わない」は、男性の20歳代と40歳代(ともに50.0%)で多くなっています。

居住区別では、「そう思う」は、多摩区(13.2%)で多くなっています。

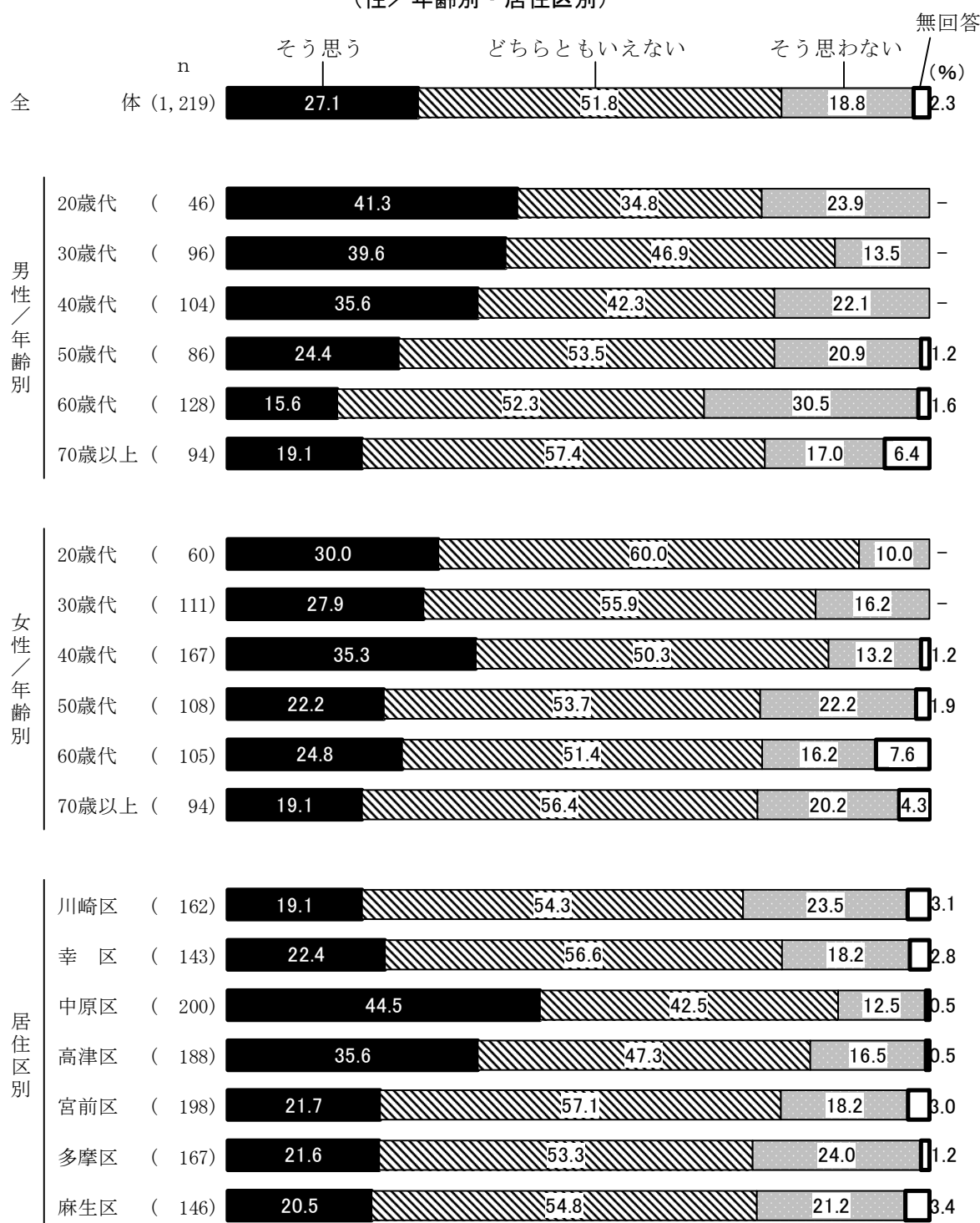
図表1-30 川崎市の魅力(27) 文化芸術に関する施設や催事が充実している(性/年齢別・居住区別)



(27) 文化芸術に関する施設や催事が充実しているについて、性/年齢別では、「そう思う」は、女性の40歳代(34.7%)、30歳代(34.2%)の順で多くなっています。一方「そう思わない」は、男性の60歳代(24.2%)、50歳代(23.3%)の順で多くなっています。

居住区別では、「そう思う」は、麻生区(41.1%)で多くなっています。

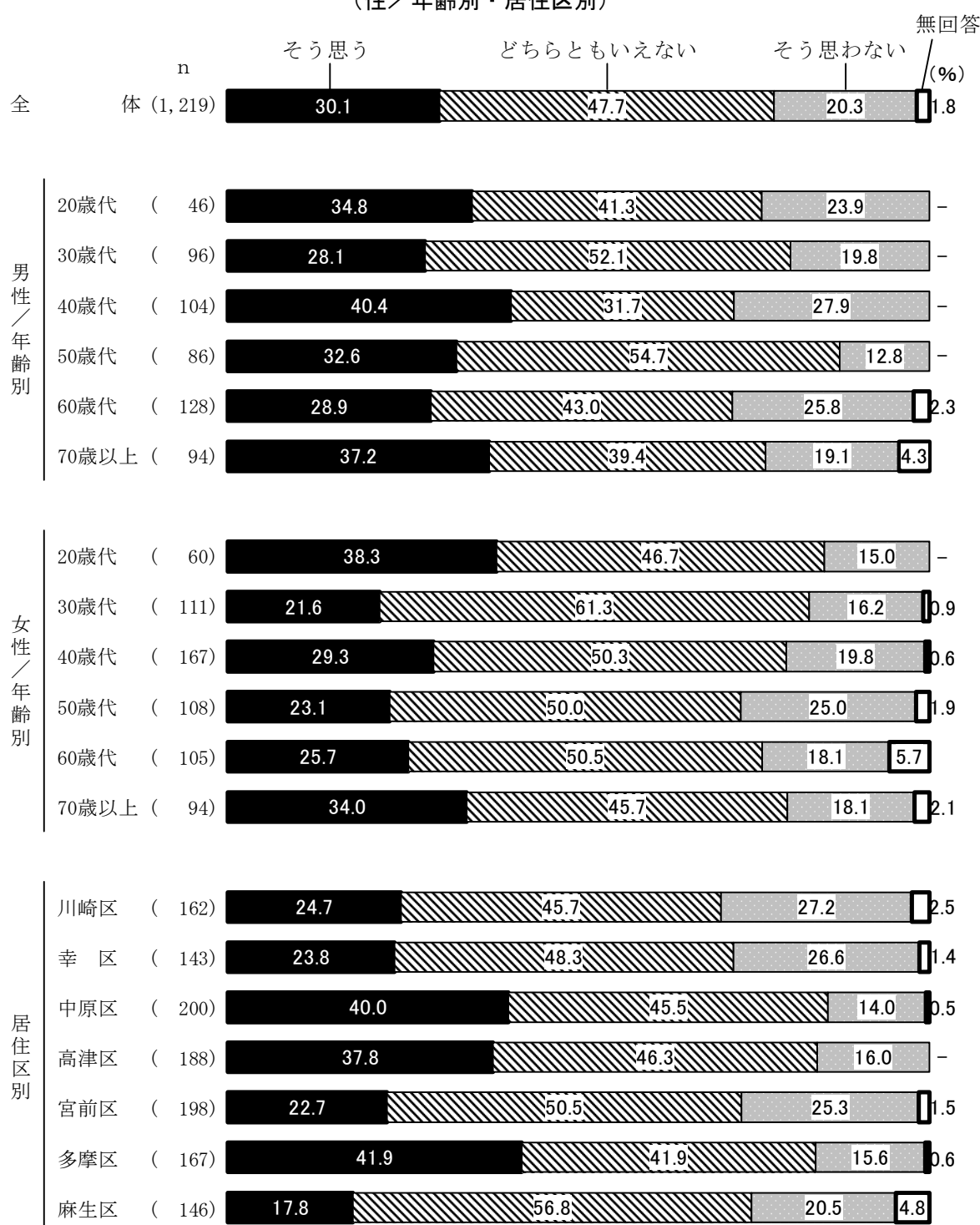
図表1-31 川崎市の魅力(28) スポーツを行うまたは観戦する環境が充実している
(性/年齢別・居住区別)



(28) スポーツを行うまたは観戦する環境が充実しているについて、性/年齢別では、「そう思う」は、男性の20歳代(41.3%)、30歳代(39.6%)の順で多くなっています。一方「そう思わない」は、男性の60歳代(30.5%)で多くなっています。

居住区別では、「そう思う」は、中原区(44.5%)、高津区(35.6%)の順で多くなっている一方、「そう思わない」は、多摩区(24.0%)、川崎区(23.5%)の順で多くなっています。

図表1-32 川崎市の魅力(29) 市民が親しめる水辺の環境(河川・港湾など)が整備されている
(性/年齢別・居住区別)

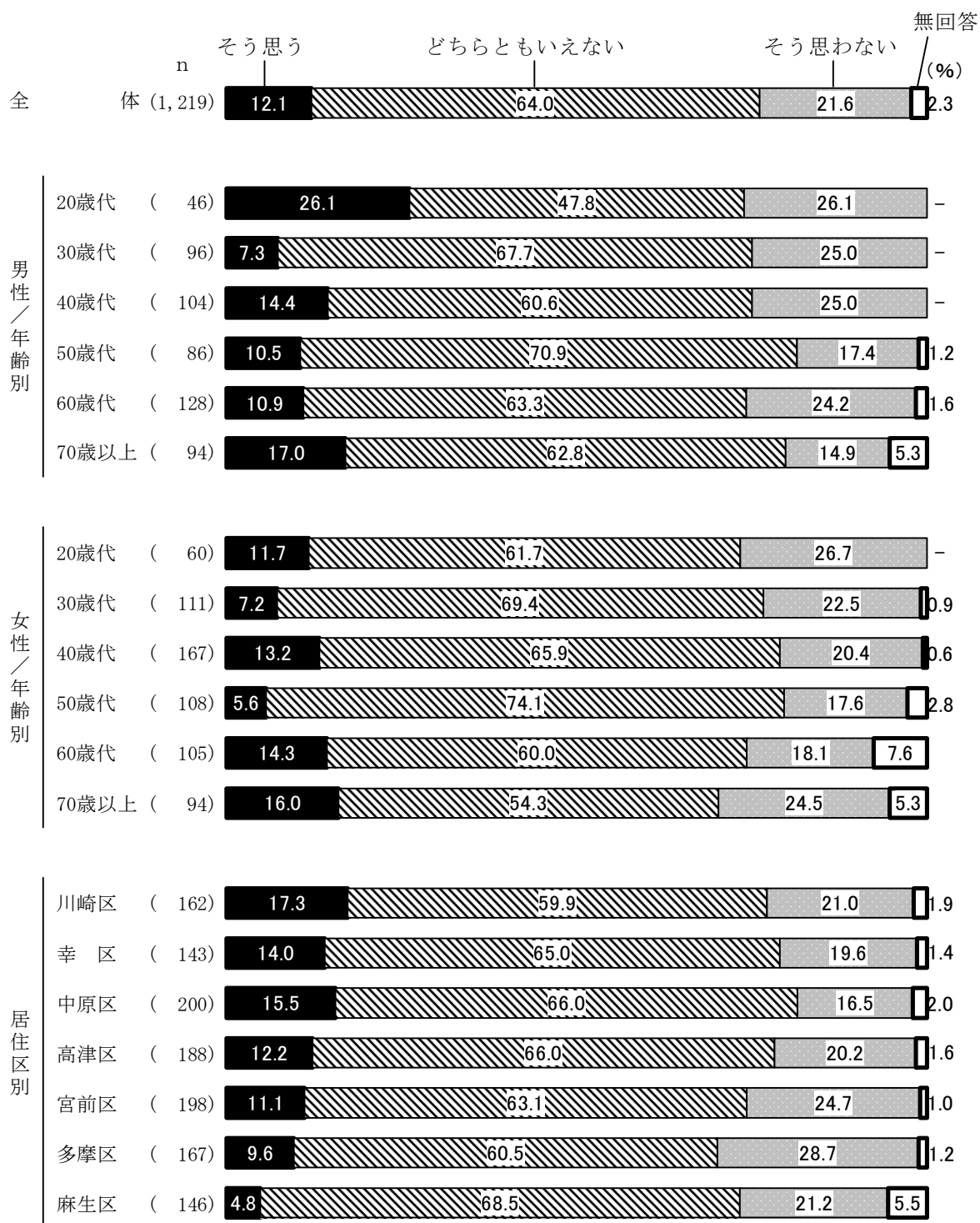


(29) 市民が親しめる水辺の環境(河川・港湾など)が整備されているについて、性/年齢別では、「そう思う」は、男性の40歳代(40.4%)、女性の20歳代(38.3%)の順で多くなっている一方、「そう思わない」は、男性の40歳代(27.9%)、60歳代(25.8%)の順で多くなっています。

居住区別では、「そう思う」は、多摩区(41.9%)、中原区(40.0%)、高津区(37.8%)の順で多くなっている一方、「そう思わない」は、川崎区(27.2%)、幸区(26.6%)の順で多くなっています。

(第1回アンケート)

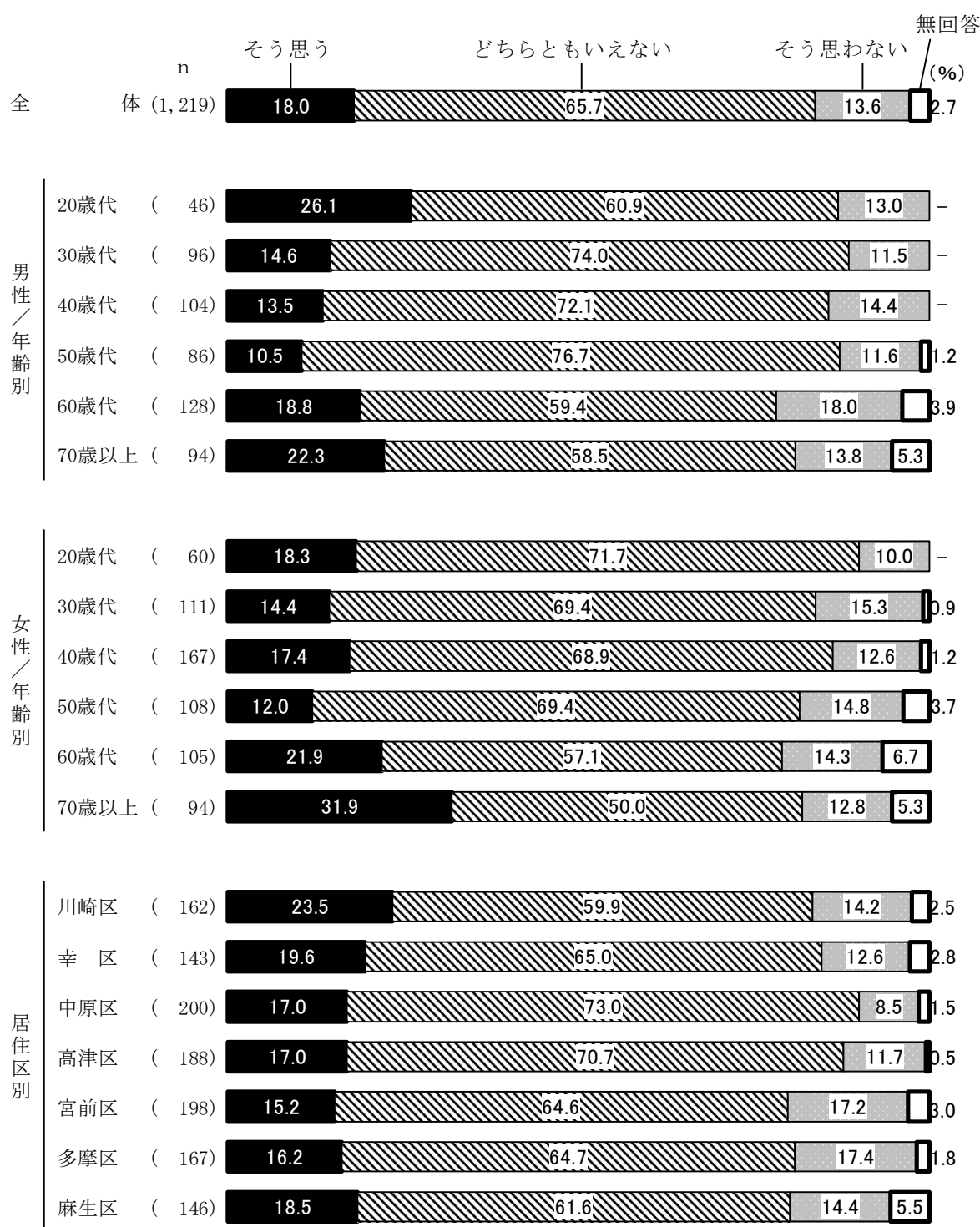
図表1-33 川崎市の魅力(30) 国際交流が盛んである(性/年齢別・居住区別)



(30) 国際交流が盛んであるについて、性/年齢別では、「そう思う」は、男性の20歳代(26.1%)で多くなっている一方、女性の50歳代(5.6%)で少なくなっています。

居住区別では、「そう思う」は、川崎区(17.3%)で多くなっている一方、麻生区(4.8%)で少なくなっています。

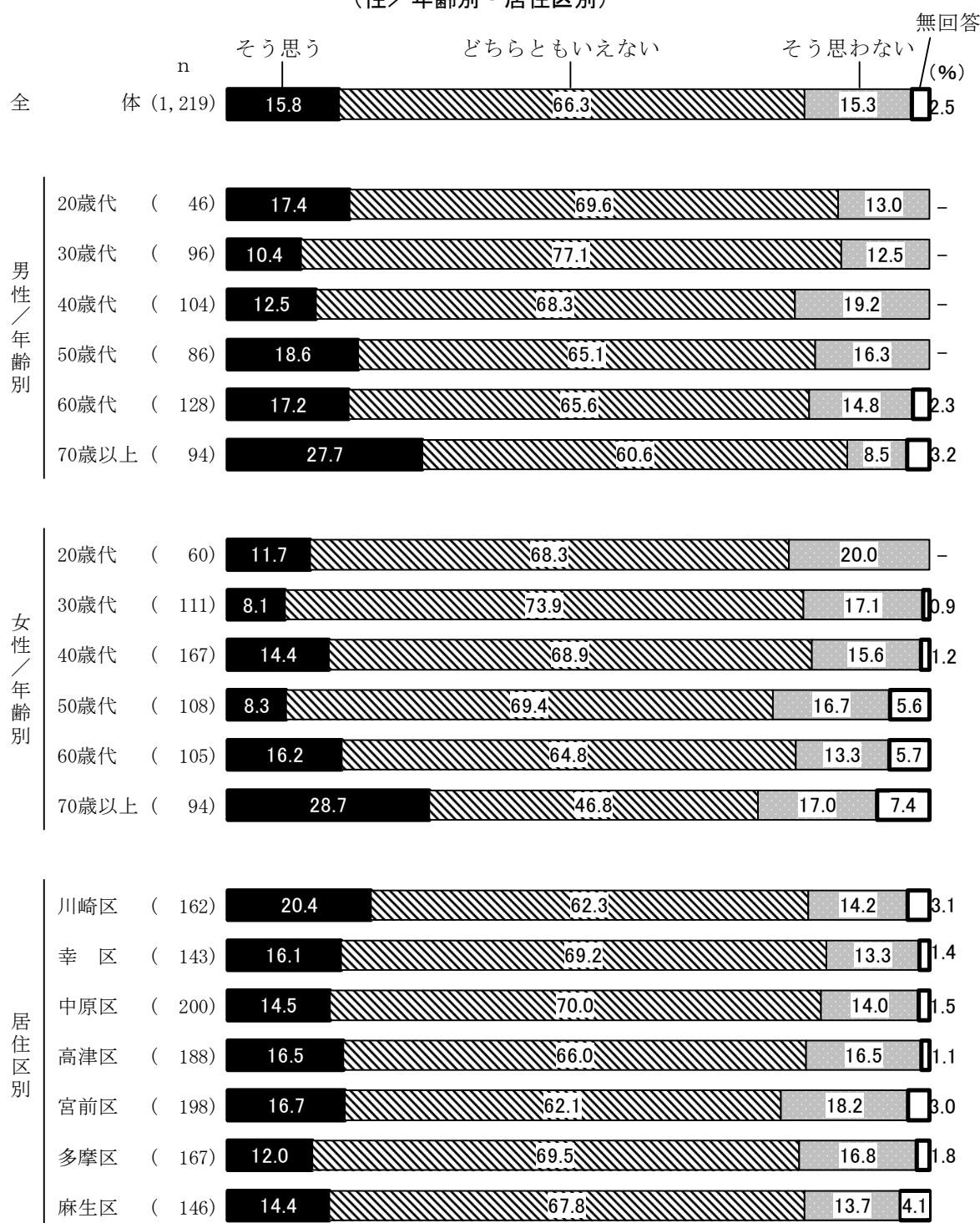
図表1-34 川崎市の魅力(31) 市民活動がしやすい環境である(性/年齢別・居住区別)



(31) 市民活動がしやすい環境であるについて、性/年齢別では、「そう思う」は、女性の70歳以上(31.9%)、男性の20歳代(26.1%)の順で多くなっている一方、男性の50歳代(10.5%)と女性の50歳代(12.0%)で少なくなっています。

居住区別では、「そう思う」は、川崎区(23.5%)で多くなっています。

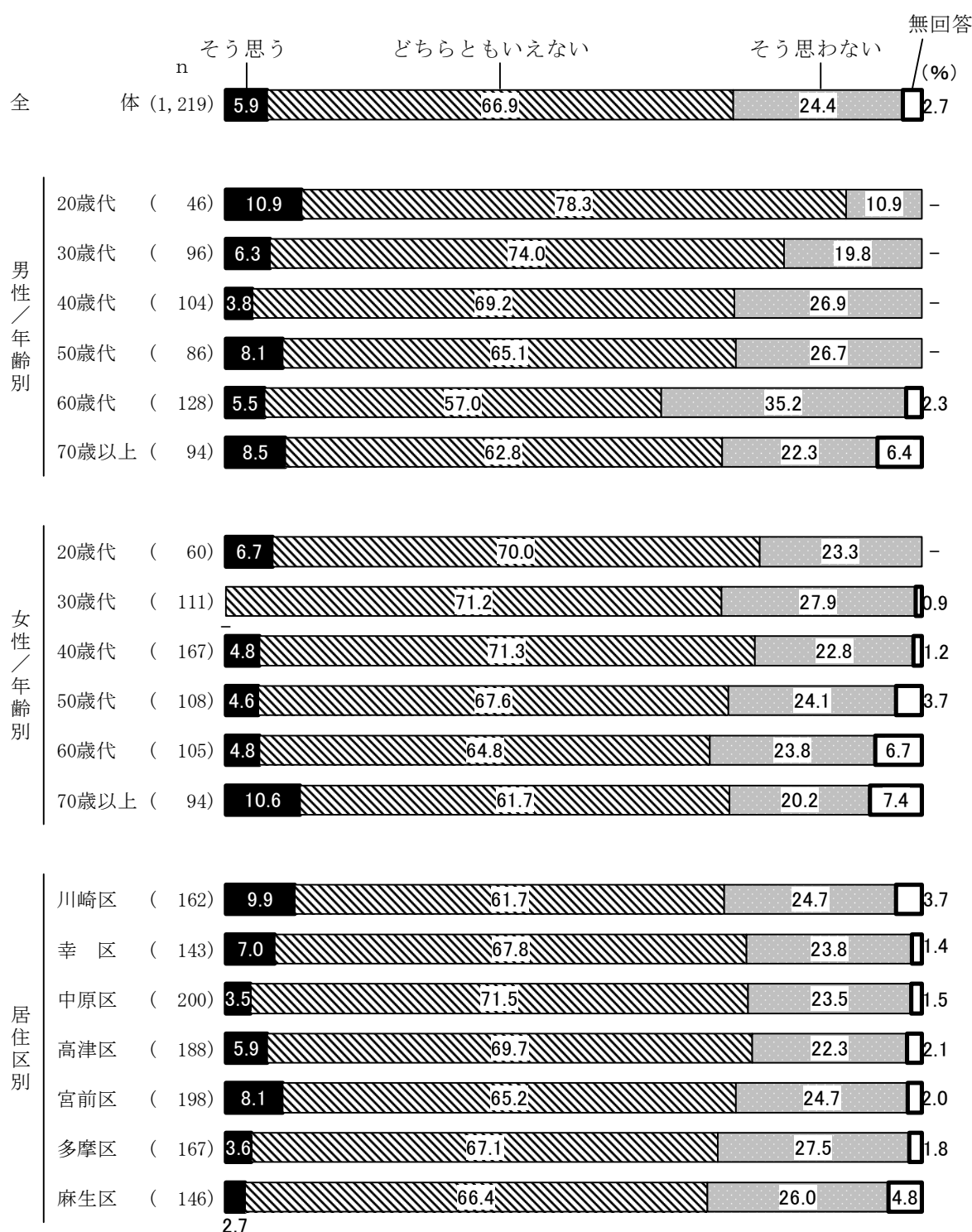
図表1-35 川崎市の魅力(32) 市政の情報公開や市民参加・協働が進んでいる
(性/年齢別・居住区別)



(32) 市政の情報公開や市民参加・協働が進んでいるについて、性/年齢別では、「そう思う」は、女性の70歳以上(28.7%)、男性の70歳以上(27.7%)の順で多くなっている一方、女性の30歳代(8.1%)と50歳代(8.3%)で少なくなっています。

居住区別では、「そう思う」は、川崎区(20.4%)で多くなっています。

図表1-36 川崎市の魅力(33) 行財政改革が進んでいる(性/年齢別・居住区別)



(33) 行財政改革が進んでいるについて、性/年齢別では、「そう思う」は、男性の20歳代(10.9%)、女性の70歳以上(10.6%)の順で多くなっています。一方「そう思わない」は、男性の60歳代(35.2%)、女性の30歳代(27.9%)の順で多くなっています。

居住区別では、「そう思う」は、川崎区(9.9%)で多くなっています。

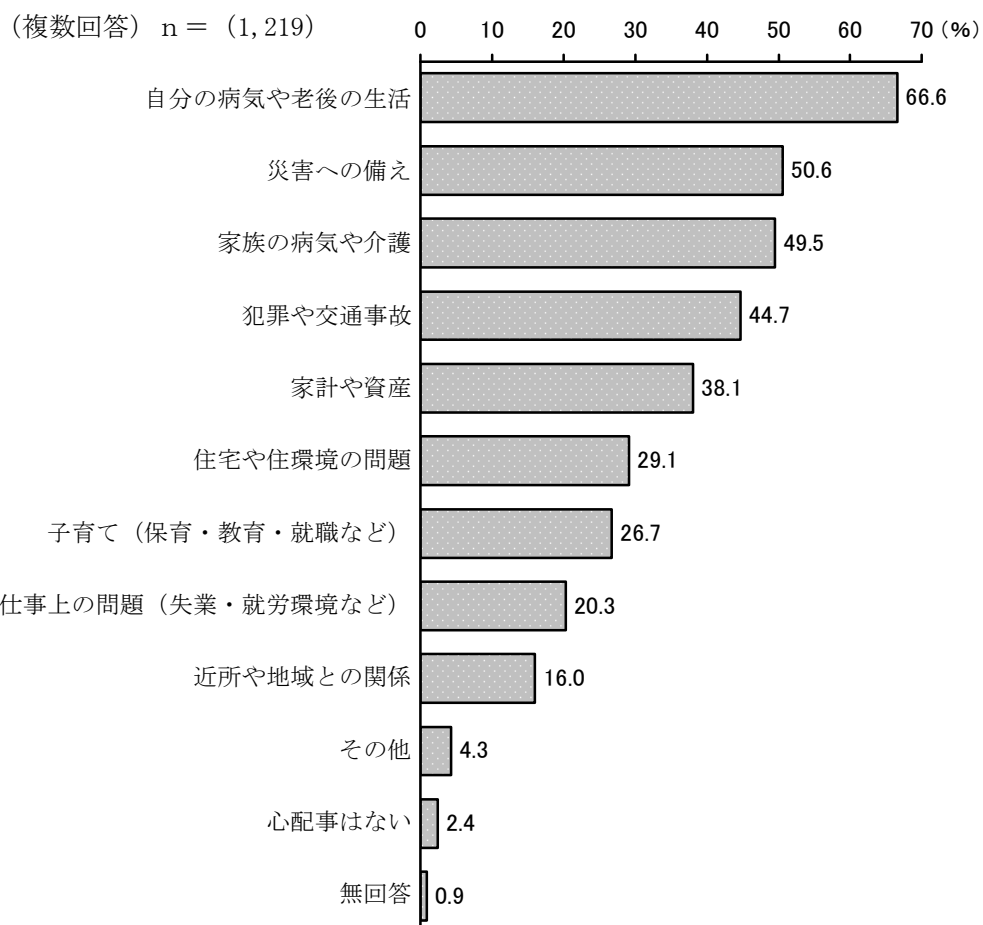
1-3 現在生活する上で不安を感じていること

◎「自分の病気や老後の生活」が66.6%

問3 あなたは、現在、生活する上でどのような事柄に対して不安を感じていますか。

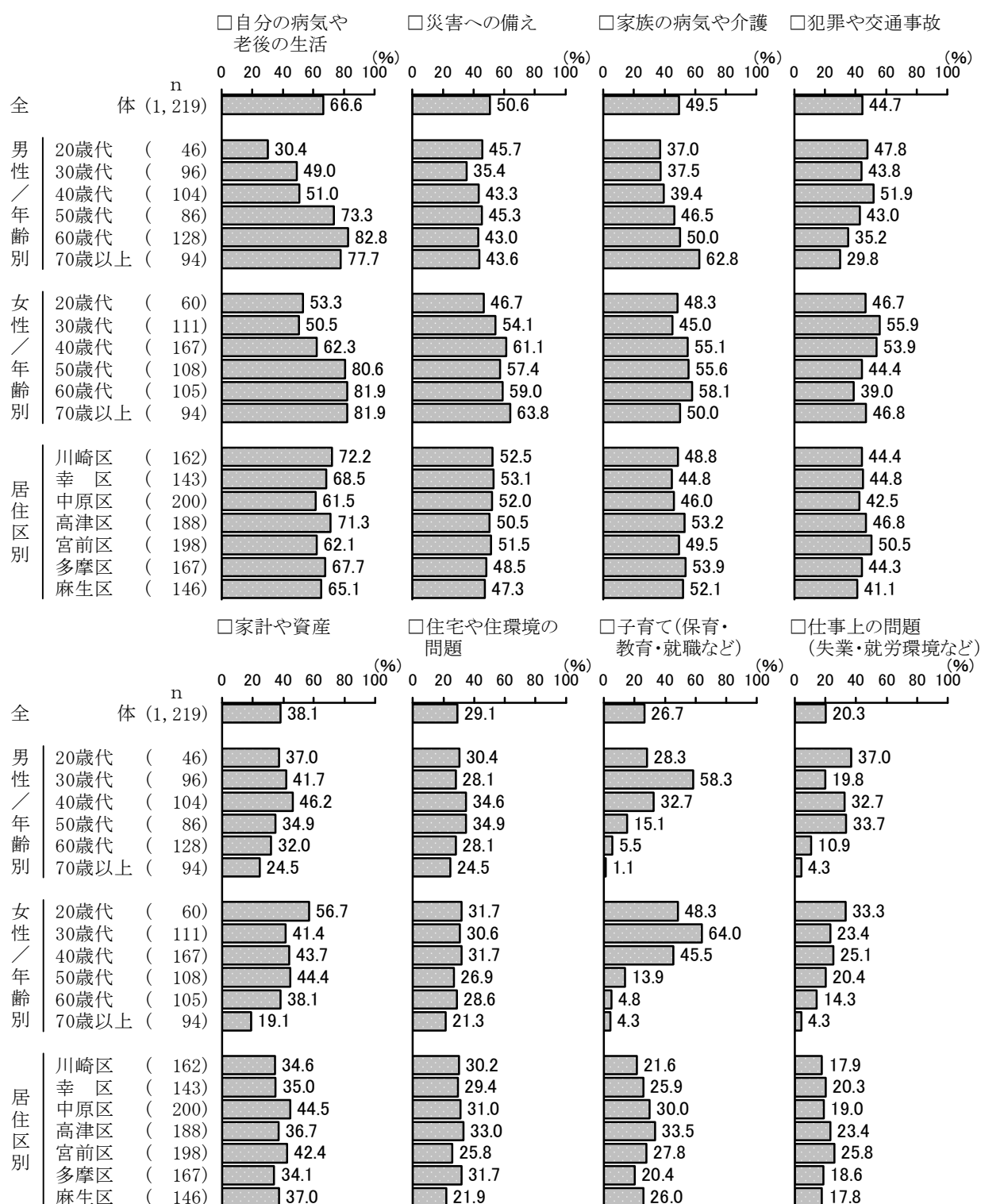
(あてはまるもの全てに○)

図表 1-37 現在生活する上で不安を感じていること



現在生活する上で不安を感じていることは、「自分の病気や老後の生活」(66.6%)が最も多く、次いで「災害への備え」(50.6%)、「家族の病気や介護」(49.5%)、「犯罪や交通事故」(44.7%)、「家計や資産」(38.1%)の順となっています。

図表1-38 現在生活する上で不安を感じていること（性／年齢別・居住区別、上位8項目）



性／年齢別では、「自分の病気や老後の生活」は、男女とも50歳代以上の年代で7～8割と多くなっています。「災害への備え」は、女性の70歳以上（63.8%）で多く、「家族の病気や介護」は、男性の70歳以上（62.8%）で多くなっています。「家計や資産」は、女性の20歳代（56.7%）で多く、「子育て（保育・教育・就職など）」は、男女ともに30歳代（男性：58.3%、女性：64.0%）で多くなっています。

居住区別では、「自分の病気や老後の生活」は、川崎区（72.2%）、高津区（71.3%）の順で多くなっています。

1-4 これからの10年で川崎市が目指すべき方向性・都市像

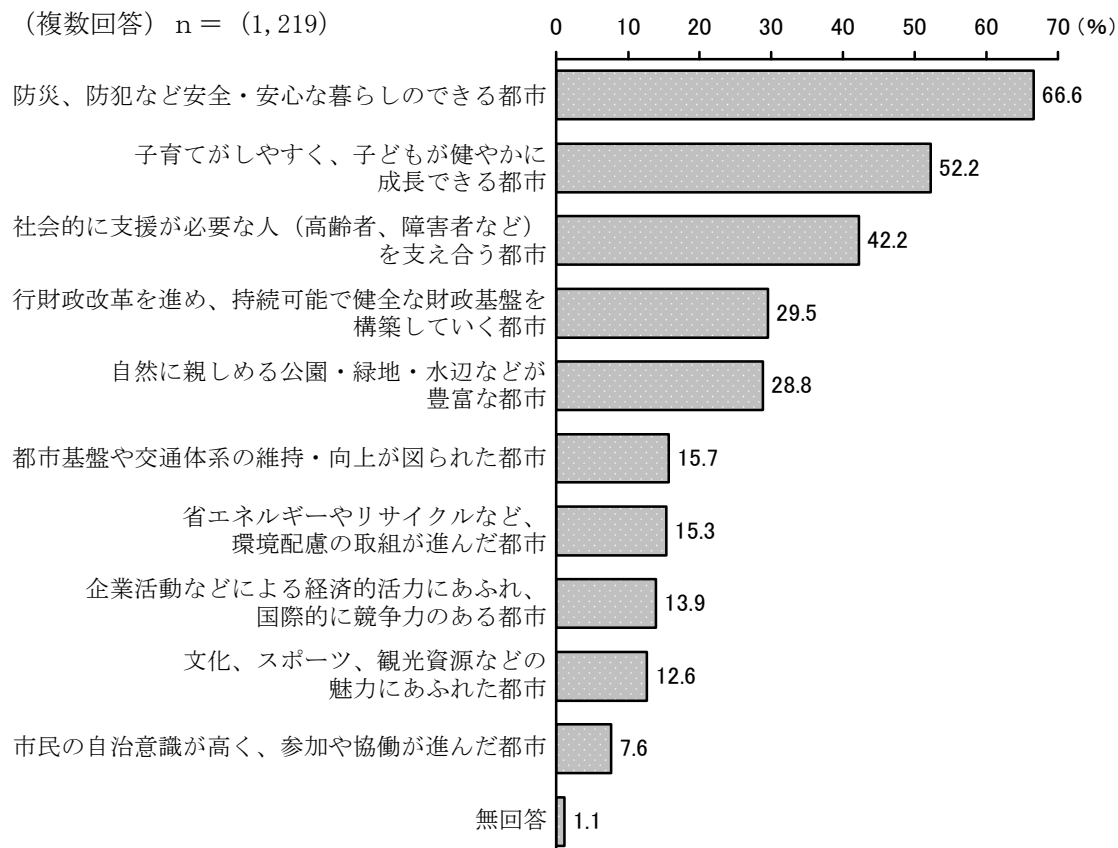
◎「防災、防犯など安全・安心な暮らしのできる都市」が66.6%

問4 あなたは、これからの10年で、川崎市がどのような方向性・都市像を目指すべきと考えますか。次に示す方向性について、優先度の高いと思うものを選んでください。

(あてはまるもの3つまでに○)

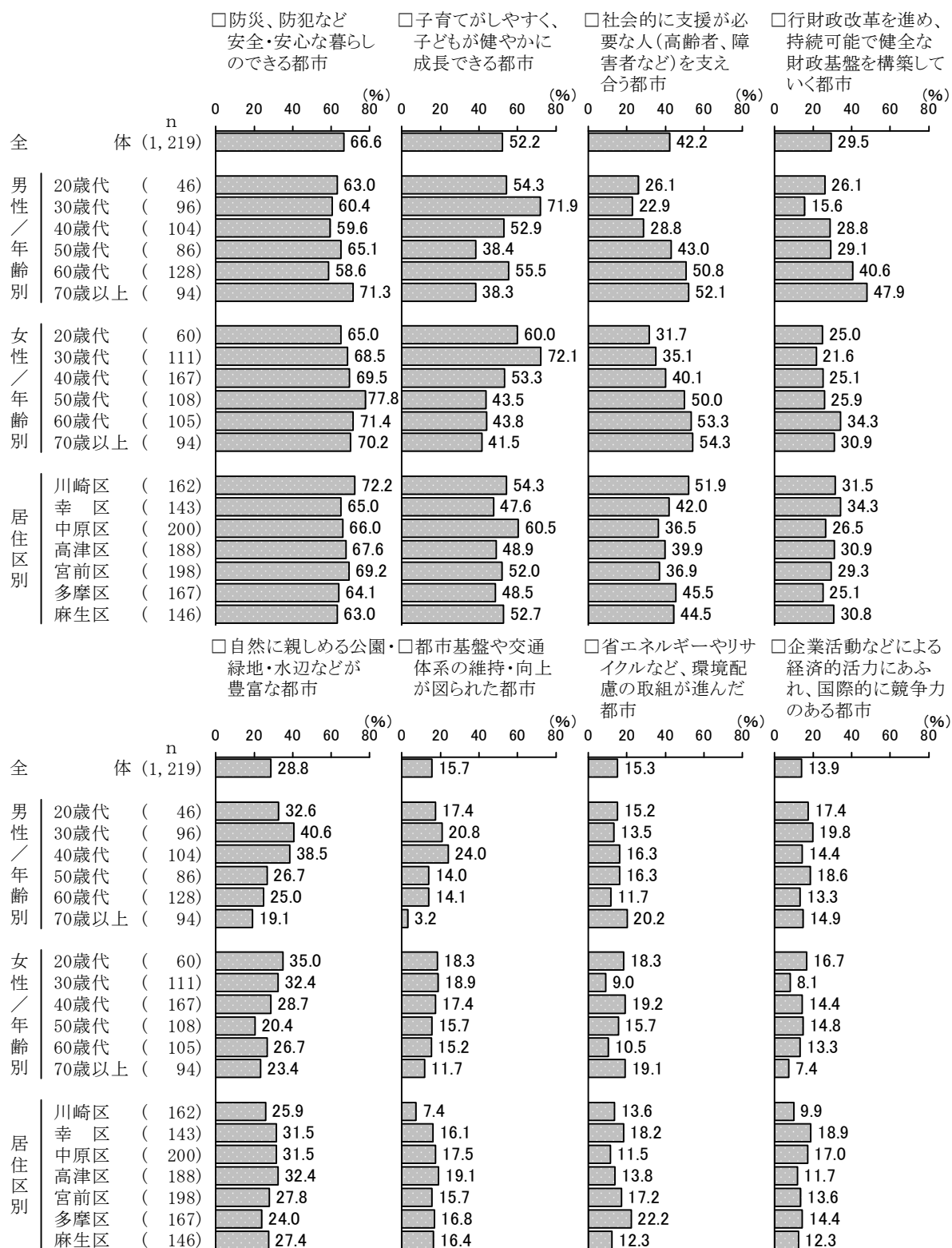
図表1-39 これからの10年で川崎市が目指すべき方向性・都市像

(複数回答) n = (1, 219)



これからの10年で川崎市が目指すべき方向性・都市像は、「防災、防犯など安全・安心な暮らしのできる都市」(66.6%)が最も多く、次いで「子育てがしやすく、子どもが健やかに成長できる都市」(52.2%)、「社会的に支援が必要な人(高齢者、障害者など)を支え合う都市」(42.2%)、「行財政改革を進め、持続可能で健全な財政基盤を構築していく都市」(29.5%)、「自然に親しめる公園・緑地・水辺などが豊富な都市」(28.8%)の順となっています。

図表1-40 これからの10年で川崎市が目指すべき方向性・都市像(性／年齢別・居住区別、上位8項目)



性／年齢別では、「子育てがしやすく、子どもが健やかに成長できる都市」は、男女ともに30歳代(男性：71.9%、女性：72.1%)で多くなっています。「社会的に支援が必要な人(高齢者、障害者など)を支え合う都市」は、男女とも50歳代以上の年代で多く、「自然に親しめる公園・緑地・水辺などが豊富な都市」は、男性の30歳代(40.6%)と40歳代(38.5%)で多くなっています。

居住区別では、「子育てがしやすく、子どもが健やかに成長できる都市」は、中原区(60.5%)で多く、「社会的に支援が必要な人(高齢者、障害者など)を支え合う都市」は川崎区(51.9%)で多くなっています。

1-5 川崎市の今後の財政運営の方向性

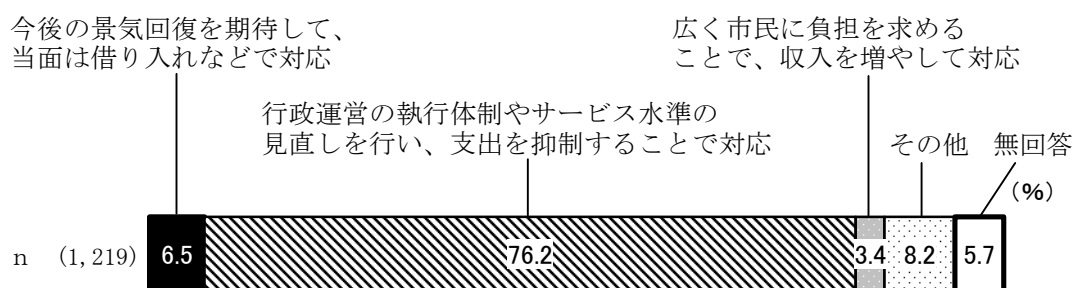
◎「行政運営の執行体制やサービス水準の見直しを行い、支出を抑制することで対応」が76.2%

問5 新たな総合計画を策定するためには、しっかりとした財源の裏づけが必要です。平成26(2014)年度予算とともに公表した資料によると、現在のまま行政サービスを提供する場合、平成27(2015)年度に44億円、平成28(2016)年度に92億円の収支不足が見込まれます。

今後の財政運営の方向性として、あなたが、優先度が高いと思うものを選んでください。

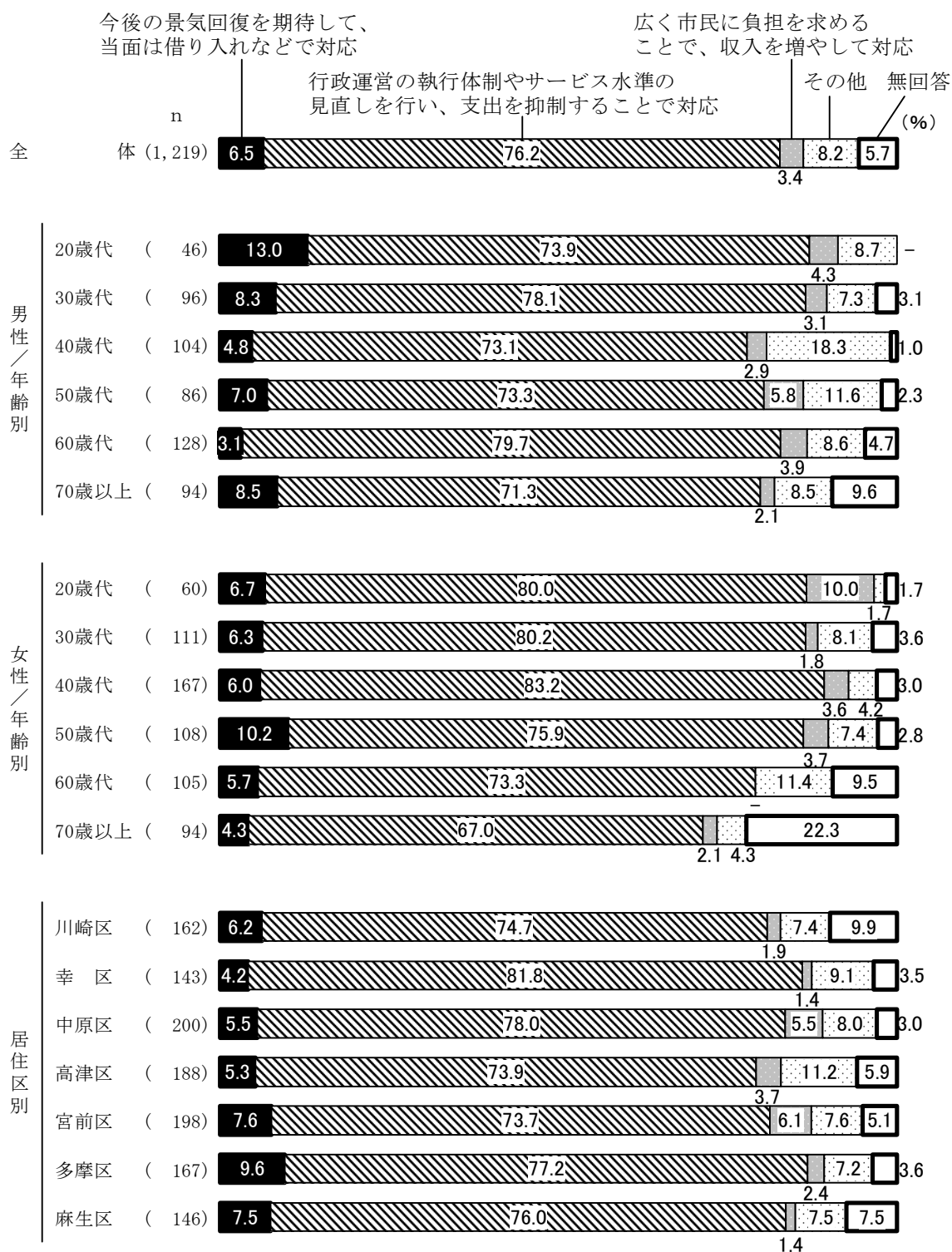
(○は1つだけ)

図表 1-41 川崎市の今後の財政運営の方向性



川崎市の今後の財政運営の方向性は、「行政運営の執行体制やサービス水準の見直しを行い、支出を抑制することで対応」(76.2%)が最も多くなっています。「今後の景気回復を期待して、当面は借り入れなどで対応」は6.5%、「広く市民に負担を求めることで、収入を増やして対応」は3.4%となっています。

図表1-42 川崎市の今後の財政運営の方向性（性／年齢別・居住区別）



全体で「行政運営の執行体制やサービス水準の見直しを行い、支出を抑制することで対応」が76.2%となっている中で、性／年齢別では、「今後の景気回復を期待して、当面は借り入れなどで対応」は、男性の20歳代（13.0%）で多くなっています。「広く市民に負担を求めることで、収入を増やして対応」は、女性の20歳代（10.0%）で多くなっています。

居住区別では、「今後の景気回復を期待して、当面は借り入れなどで対応」は、多摩区（9.6%）で多くなっている一方、「広く市民に負担を求めることで、収入を増やして対応」は、宮前区（6.1%）で多くなっています。

1-6 川崎市が重点的に進めていくべき行財政改革の取組

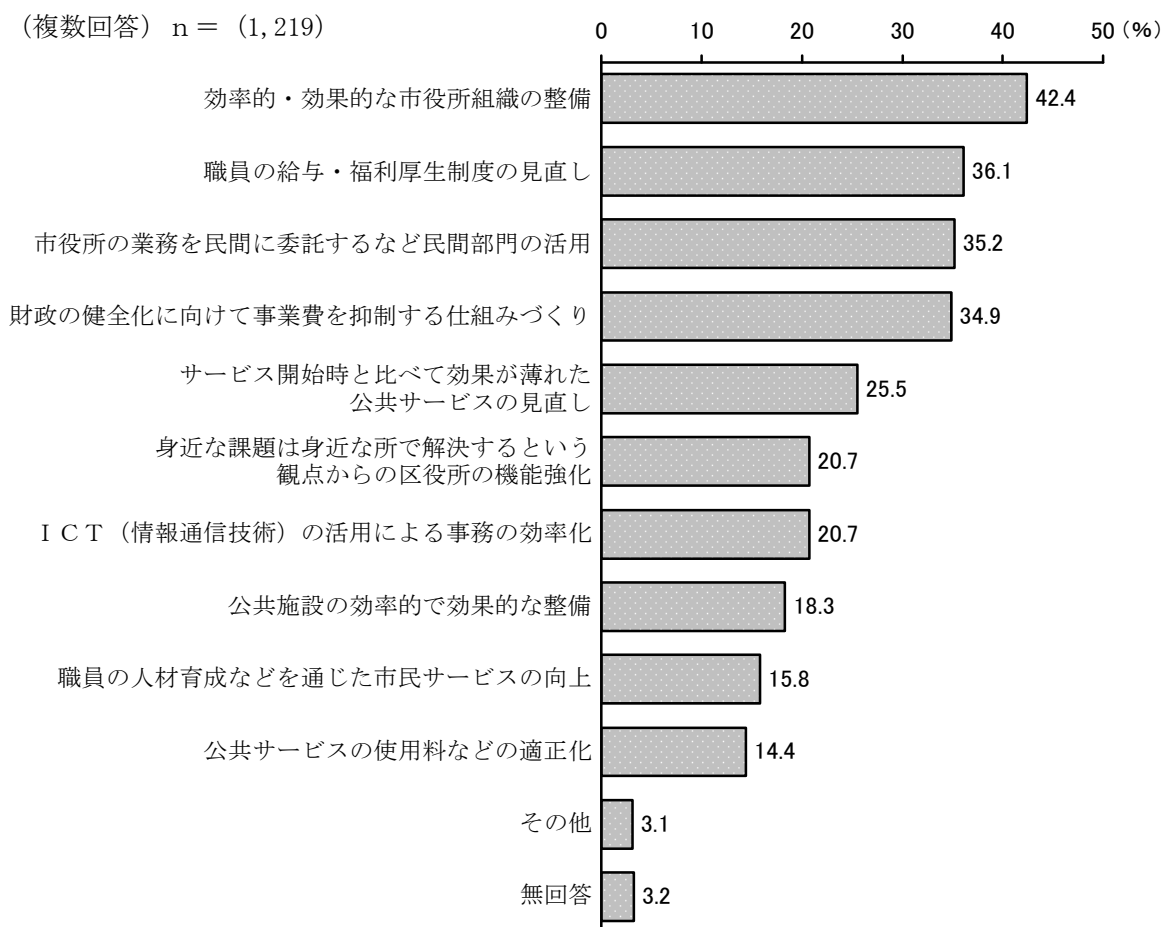
◎「効率的・効果的な市役所組織の整備」が42.4%

問6 本市では、これまで4次にわたる行財政改革プランに基づき、民間部門の活用等による効率的・効果的な行政体制の整備などの改革を実施し、約3,000人の職員数の削減などによる250億円を上回る職員給※の削減等の改革効果を上げてきましたが、今後、本市が重点的に進めていくべき行財政改革の取組として、あなたは、どれが適当だと思いますか。

(あてはまるもの3つまでに○)

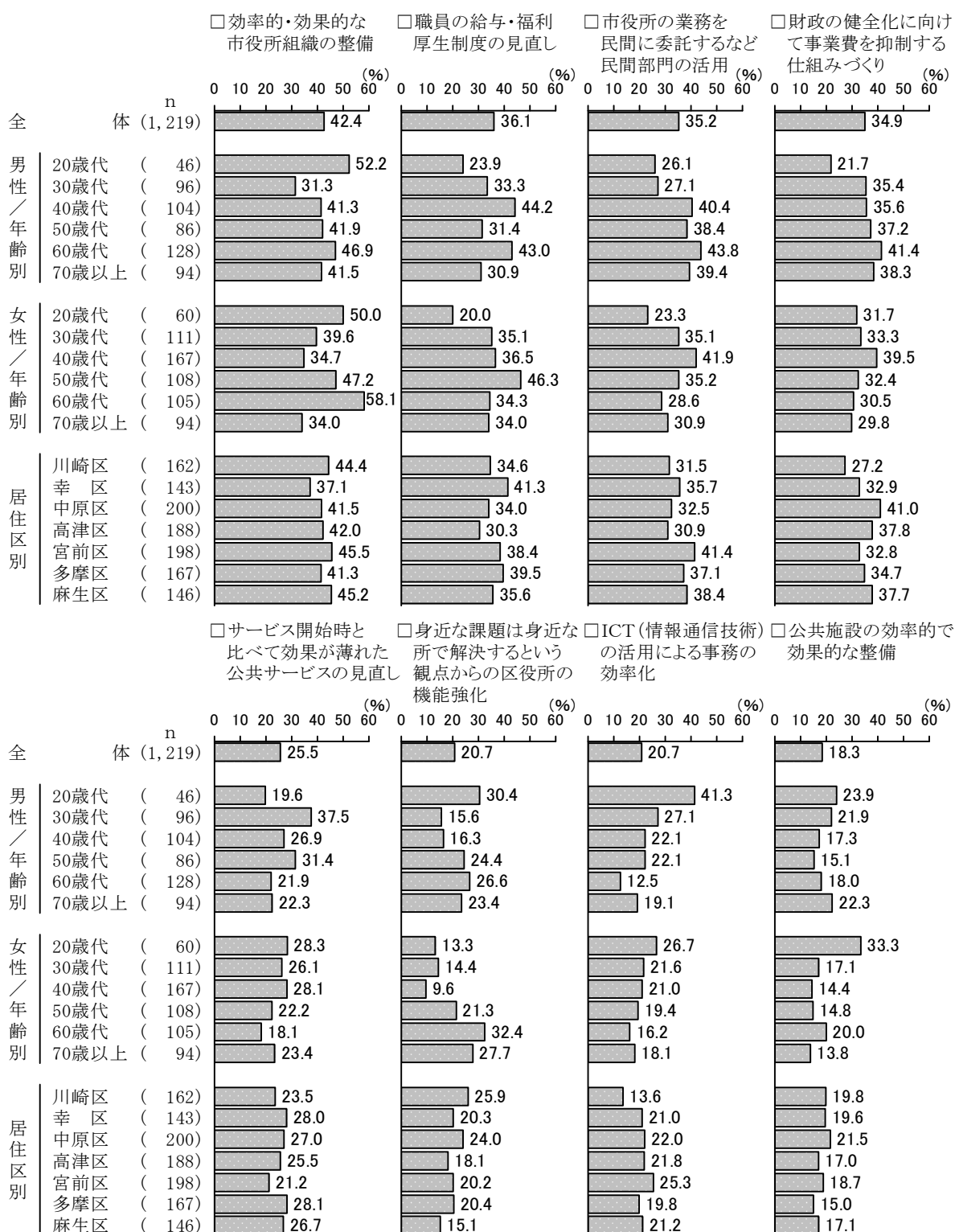
図表1-43 川崎市が重点的に進めていくべき行財政改革の取組

(複数回答) n = (1,219)



川崎市が重点的に進めていくべき行財政改革の取組は、「効率的・効果的な市役所組織の整備」(42.4%)が最も多く、次いで「職員の給与・福利厚生制度の見直し」(36.1%)、「市役所の業務を民間に委託するなど民間部門の活用」(35.2%)、「財政の健全化に向けて事業費を抑制する仕組みづくり」(34.9%)、「サービス開始時と比べて効果が薄れた公共サービスの見直し」(25.5%)の順となっています。

図表1-44 川崎市が重点的に進めていくべき行財政改革の取組（性／年齢別・居住区別、上位8項目）



性／年齢別では、「効率的・効果的な市役所組織の整備」は、女性の60歳代（58.1%）、男性の20歳代（52.2%）の順で多くなっています。「職員の給与・福利厚生制度の見直し」は、女性の50歳代（46.3%）で最も多く、「市役所の業務を民間に委託するなど民間部門の活用」は、男性の60歳代（43.8%）で最も多くなっています。

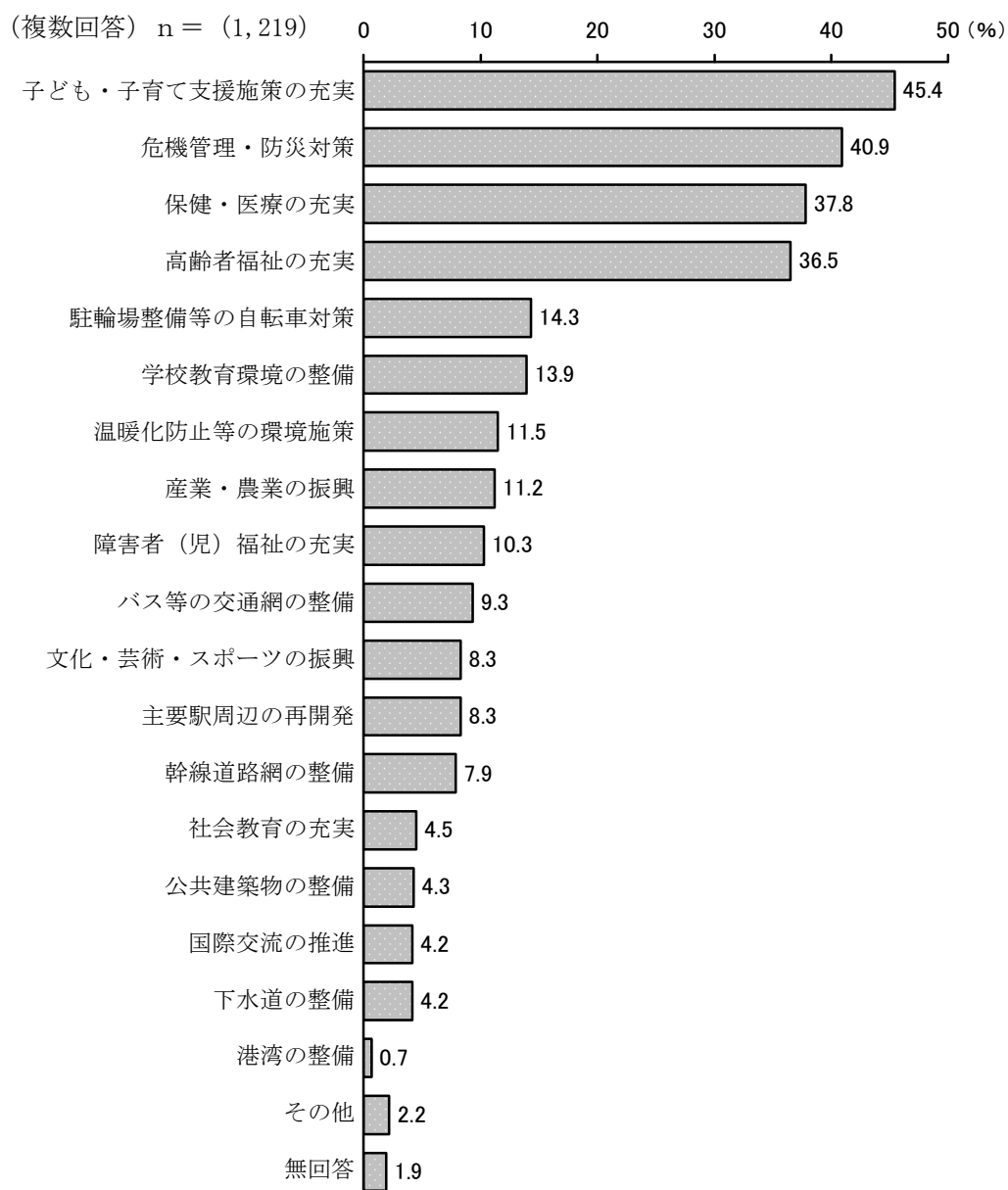
居住区別では、それぞれ、「効率的・効果的な市役所組織の整備」は宮前区、「職員の給与・福利厚生制度の見直し」は幸区、また、「市役所の業務を民間に委託するなど民間部門の活用」は宮前区が最も多くなっています。

1-7 川崎市の事業の見直しを進める中でも、特に継続すべき事業・サービス

◎「子ども・子育て支援施策の充実」が45.4%

問7 あなたは、市の事業の見直しを進める中でも、特に継続すべきと考える事業・サービスはありますか。(あてはまるもの3つまでに○)

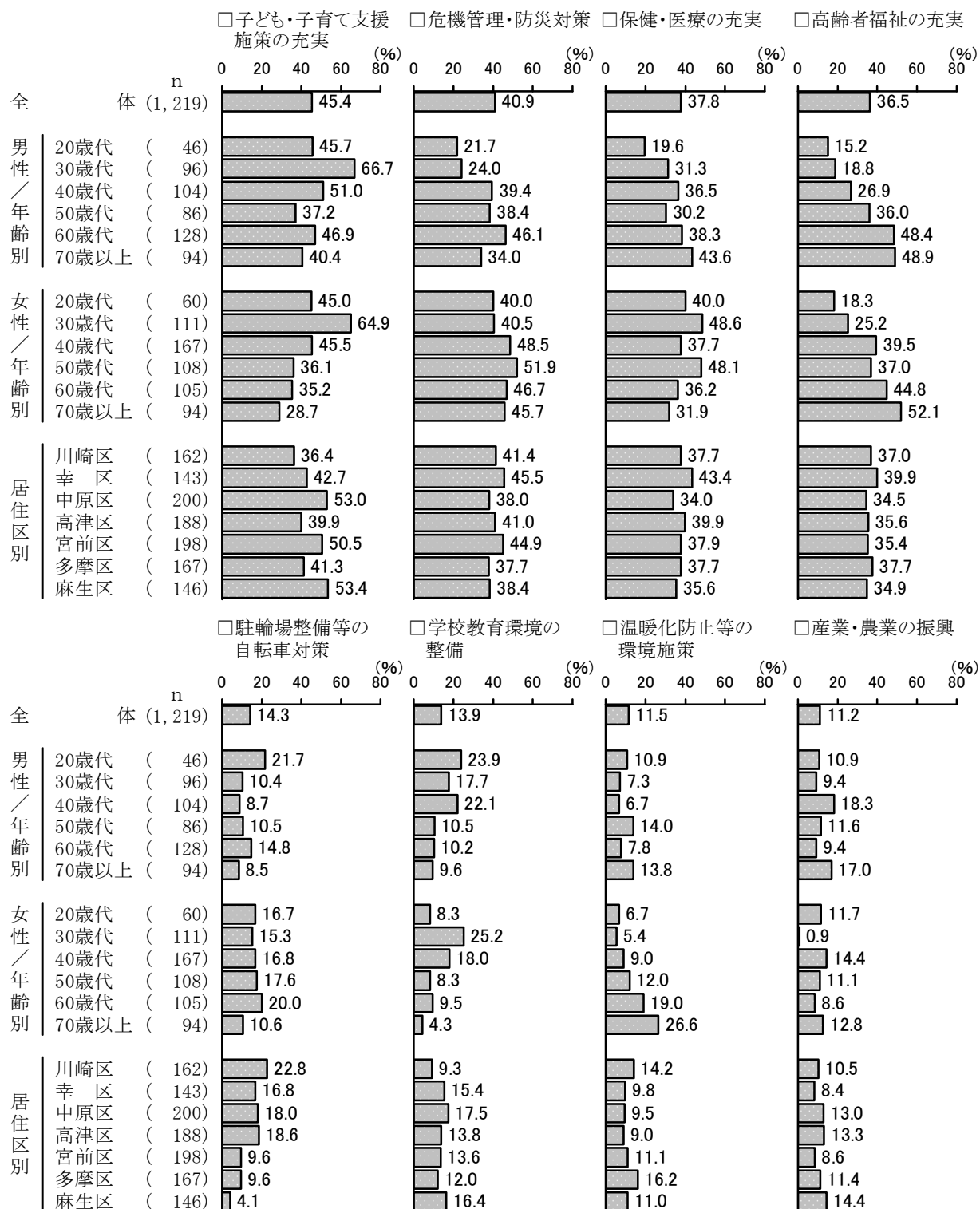
図表1-45 川崎市の事業の見直しを進める中でも、特に継続すべき事業・サービス



川崎市の事業の見直しを進める中でも、特に継続すべき事業・サービスは、「子ども・子育て支援施策の充実」(45.4%)が最も多く、次いで「危機管理・防災対策」(40.9%)、「保健・医療の充実」(37.8%)、「高齢者福祉の充実」(36.5%)の順となっています。

図表1-46 川崎市の事業の見直しを進める中でも、特に継続すべき事業・サービス

(性／年齢別・居住区別、上位8項目)



性／年齢別では、「子ども・子育て支援施策の充実」は、男性の30歳代（66.7%）、女性の30歳代（64.9%）の順で多くなっています。「危機管理・防災対策」は、女性の50歳代（51.9%）、40歳代（48.5%）の順で多く、「保健・医療の充実」は、女性の30歳代（48.6%）、50歳代（48.1%）の順で多くなっています。

居住区別では、「子ども・子育て支援施策の充実」は、麻生区（53.4%）、中原区（53.0%）、宮前区（50.5%）の順で多くなっています。